

令和4年（2022年）

神戸市感染症発生動向調査事業

事業報告

神戸市保健所

神戸市健康科学研究所

令和4年(2022年)神戸市感染症発生動向調査事業 事業報告

目次

神戸市感染症発生動向調査事業(感染症サーベイランス)の概要	1
令和4年(2022年)患者発生および病原体検出状況	7
表1 全数把握対象感染症発生状況(平成30~令和4年)	16
表2 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(一覽)	17
表3 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(平成8~令和4年)	18
表3-1 月別発生状況	18
表3-2 年齢別発生状況	19
表3-3 区別発生状況(患者居住地)	20
表3-4 血清型別・患者・保菌者別発生状況	21
表4 四類・五類(全数把握)感染症発生状況(疾患別発生状況)	22
表5 四類(全数把握)感染症発生状況	23
表6-1 五類(全数把握)感染症発生状況(麻しん・風しん以外)	24
表6-2 五類(全数把握)感染症発生状況(麻しん・風しん)	27
表7 新型コロナウイルス感染症発生状況(令和4年)	28
表8 神戸市感染症発生動向調査年報 令和4年(第1週~第52週集計)	29
表9 インフルエンザ・小児科・眼科定点患者報告数(平成30~令和4年)	30
表10 基幹定点(週報)患者報告数(平成30~令和4年)	30
表11 基幹定点(月報)患者報告数(平成30~令和4年)	30
表12-1 性感染症(STD)定点患者報告数(平成30~令和4年)	30
表12-2 性感染症(STD)定点患者報告数(年次集計)	31
令和4年(2022年)病原体検出状況報告(病院検査室定点)	
表13 病院検査室定点活動状況(平成6~令和4年)	32
表14 便(細菌)	33
表15 便(ウイルス)	33
表16 便(原虫)	33
表17 穿刺液(胸水、腹水、関節液など)	33
表18 髄液	34
表19 咽頭および鼻咽頭からの材料	34
表20 尿	34
表21 血液	34
表22 喀痰、気管吸引液および下気道からの材料	35
表23 尿道または子宮頸管擦過(分泌)物	35
表24 検出された黄色ブドウ球菌の内訳	35
表25 腸管出血性大腸菌の検出	36
令和4年(2022年)病原体検出状況報告(健康科学研究所実施分)	
表26 2022年 STD(定点)	37
表27 食中毒以外の細菌検査	37
表28 ウイルス検出状況	37
表29 新型コロナウイルス検出状況	37
表30 疾患別ウイルス検出件数	37
令和4年(2022年)神戸市感染症の話題	
2月 <報告> 病原体検出状況(病院検査室定点)2021年(令和3年)	38
3月 <話題> ノロウイルス感染症に注意	45
6月 <報告> 2021(令和3)年病原体検出状況(神戸市実施分)	49
8月 <話題> ダニ媒介感染症(日本紅斑熱、つつがむし病、SFTS)	54
9月 <話題> 結核	58
感染症発生動向調査の対象となる感染症一覽(令和4年4月1日現在)	61
報告週対応表(令和4年)	62

神戸市感染症発生動向調査事業 (感染症サーベイランス)の概要

感染症発生動向調査とは、日本における感染症のサーベイランスシステム(調査・監視)の一つである。感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を医療機関や市民へ迅速に情報提供・公開することにより、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を行い、感染症の発生およびまん延を防止することを目的としている。

神戸市の感染症サーベイランスは、昭和46年に50カ所の定点医療機関からスタートした。その後、昭和56年(1981年)7月から全国で18疾病を対象に調査事業が始まり、昭和62年に国とオンライン化になるなど幾度かの制度の見直しが行われている。

平成11年4月には「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)の施行に伴い、感染症対策の一つとして、法令に位置付けられた。

実施主体は、国・都道府県及び保健所を設置する市(特別区を含む)であり、情報を収集する感染症は感染症法により対象疾患および類型が定められている。

医師は感染症法第12条に基づき、該当する患者等を診断した時は、最寄りの保健所に届け出なければならない。令和4年12月31現在、届出の対象となる感染症は疑似症を含めて116疾病となっている。

また、感染症法第14条に基づき、開設者の同意を得て、五類感染症のうち厚生労働省令で定めるもの又は二～四類感染症、若しくは五類感染症の疑似症のうち厚生労働省令で定めるものの患者の発生状況の届出や、五類感染症の患者の検体等の提出を担当する病院又は診療所(指定届出機関)を兵庫県が指定している。

平成26年、法律第115号にて感染症法の一部が改正された。これにより、検体採取の項目が設けられ、平成28年4月より感染症に関する情報の収集体制の強化が施行された。

(感染症発生動向調査の主な歴史)

年月日	事項
昭和46年	神戸市感染症サーベイランス開始(定点50か所)
昭和56年7月	全国で18疾病を対象に感染症発生動向調査事業が開始
昭和62年1月	コンピューターを用いたオンラインシステムが導入開始 27疾病に対象が拡充
平成11年4月	「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」 (以下「感染症法」という。)施行 一～四類感染症、新感染症、指定感染症が定められ、感染症発生動向調査も 感染症対策の一つとして位置付けられた。 また、全国的に統一された基準による定点の設置を行い、他地域の発生状況との 比較が容易になった。
平成12年11月	インフルエンザウイルスワクチン株に対する抗体価調査について オンラインでの報告が可能となった。
平成15年11月	媒介動物の輸入規制、消毒、蚊・ネズミなどの駆除等の措置がとれる感染症を 新四類感染症とした。旧四類感染症から新四類感染症に移行したものを除き、 新五類感染症として分類された。 さらに、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルスによるもの)など12の感染症 が追加され、ボツリヌス症など3つの感染症の名称または定義が変更された。また、 動物由来感染症対策や感染症の発生状況、動向及び原因の調査等について 充実・強化が図られた。
平成18年4月	法に基づく医師の届出基準等が一部変更されるとともに、 厚生労働省のシステムが更新され、新たな運用(NESID)が開始された。
平成19年4月	病原体等の管理体制の確立、感染症分類の見直し、結核予防法との統合が 行われ、その結果、南米出血熱が一類感染症に加わり、重症急性呼吸器症候群 (SARSコロナウイルスによるもの)が一類から二類に、コレラ、細菌性赤痢、 腸チフス、パラチフスが二類から三類に変更となった。さらに結核は二類感染症に 組み入れられ、四類感染症には新たに11感染症が加わった。
平成20年1月	平成19年の全国的な麻しん流行を受けて、それまで小児科定点把握疾病であった 麻しん及び風しんと、基幹定点把握疾病であった成人麻しんが、全数把握疾病 として五類感染症に組み入れられた。
平成25年5月	中国で発生した鳥インフルエンザH7N9が指定感染症に指定され、二類感染症相当 の扱いとなった。
平成26年9月	五類感染症(全数把握疾病)にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、 水痘(入院例に限る。)及び播種性クリプトコックス症が追加された。 また、五類感染症の薬剤耐性アシネトバクター感染症が、定点報告から 全数報告に変更となり、すべての医療機関において届出が必要となった。
平成26年11月	感染症法の一部を改正する法律が公布された(平成26年11月21日法律第115号)。 感染症法に病原体の検査に関する明確な規定が設けられ、平成28年4月から 感染症に対する情報収集体制が強化されることとなった。

年月日	事項
平成27年1月	平成26年11月の法改正により、中東呼吸器症候群(MERS)及び鳥インフルエンザ(H7N9)が指定感染症から二類感染症に変更された。
平成27年5月	平成26年11月の法改正により、五類感染症の侵襲性髄膜炎球菌感染症及び麻しんについて、患者の氏名、住所等を直ちに保健所に届け出るように届出方法及び様式の改正が行われた。
平成27年9月	平成26年11月の法改正により、感染症に関する情報収集体制の強化として、指定提出機関制度及び検査の実施体制が定められた。感染症の発生状況、動向及び原因の調査について、標準作業書に基づいた検査の実施が定められた。検体の採取、収去について、その際の通知・報告事項が定められた。
平成27年11月	平成26年11月の法改正により、病原体情報収集体制の強化として感染症発生動向調査実施要綱が一部改正された。
平成28年2月	平成26年11月の法改正により、四類感染症にジカウイルス感染症が追加された。
平成28年4月	平成26年11月、感染症法の一部改正および感染症発生動向調査実施要綱の改正が施行され、感染症に関する情報収集体制の強化としてインフルエンザ等、指定提出機関制度が施行された。
平成30年1月	平成30年1月の法改正により、百日咳が五類感染症(定点)から五類感染症(全数)に変更され、五類感染症として風しんについて、患者の氏名、住所等を直ちに保健所に届け出るように届出方法及び様式の改正が行われた。
平成30年5月	平成30年5月の法改正により、五類感染症(全数把握疾病)に急性弛緩性麻痺が追加された。
平成31年4月	平成31年4月の法改正により、疑似症定点に指定する医療機関の基準が改正され、届出基準および届出様式が変更された。
令和2年2月	中国で発生した新型コロナウイルス感染症が指定感染症に指定され、二類感染症相当の扱いとなった。
令和2年4月	眼科定点の対象疾病である「流行性角結膜炎」の届出基準が一部改正となった。
令和2年7月	発生届の提出先を変更した。(神戸市)
令和3年2月	新型コロナウイルス感染症が、指定感染症から新型インフルエンザ等感染症に、法的位置付けが変更された。
令和3年6月	全数把握疾病のうち、3疾病(マラリア、アメーバ赤痢、百日咳)の届出基準及び届出様式の一部が改正された。
令和3年9月	五類感染症である「急性弛緩性麻痺」の届出基準の一部が改正された。
令和3年12月	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」の届出様式の一部が改正された。
令和4年3月	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」の届出様式の一部が改正された。
令和4年6月	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」の届出様式の一部が改正された。
令和4年8月	全数把握疾病のうち、サル痘の届出基準及び届出様式の一部が改正された。
令和4年9月26日	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」については、感染症法に基づく医師の届出の対象を限定した運用がなされることとなった。

1. 目的

感染症法第12条から第16条に基づき①感染症に関する医師などからの情報収集②専門家による解析(必要に応じ、感染症発生状況・動向及び原因を明らかにするための積極的疫学調査)③市民・医療関係者への情報提供及び公開を行うことにより、感染症に対する有効かつ的確な予防対策を図り、多様な感染症の発生・拡大を防止することを目的とするため、一類から五類感染症すべてについて、一元的な情報収集・分析・提供・公開体制を構築する。

2. 対象疾病 P. 61参照

3. 指定届出及び指定提出機関設置状況(令和4年4月1日現在)

	定 点 種 別	定 点 数	対 象 感 染 症
患 者 定 点	インフルエンザ定点	48	インフルエンザ(鳥インフルエンザを除く)
	小児科定点 (インフルエンザ定点 を兼ねる)	31	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎
	眼科定点	10	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
	性感染症定点	12	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症
	基幹定点	3	週報告:細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)、インフルエンザ入院例 月報告:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症
	疑似症定点	7	原因不明の重症の感染症
病 原 体 定 点	インフルエンザ定点	14	インフルエンザ
	小児科定点 (インフルエンザ定点 を兼ねる)	12	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎
	眼科定点	3	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
	性感染症定点※	6	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症
	基幹定点	3	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)
病院検査室定点 ※		14	病原体検出状況に関する情報

※ 神戸市独自の設置

4. 業務概要

(1) インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点(週報)

月曜日から日曜日までを単位とする週報とし、その週に診断した新規患者について、翌週の月曜日中に調査票を保健所へ送付する。

(2) 性感染症・基幹定点(月報)

毎月1日から月末までを単位とする月報とし、その月に診断した新規患者について、翌月の初日中に調査票を保健所へ送付する。

(3) 病原体定点

報告した患者等から、随時、検査材料を採取する。(保健所が検査材料を回収し、環境保健研究所で検査を行う。保健所を通じて結果を定点機関へ報告する。)

五類感染症の疾患で、患者数の把握だけでは、その流行状況を把握できない疾患(例えば、症状は同じでも複数の異なる病原体が原因となっている疾患(インフルエンザ、ヘルパンギーナなど)や、ワクチン接種を行っているにもかかわらず流行をおこし病原体の変異が疑われる疾患(麻しん、流行性耳下腺炎など)については、病原体サーベイランスとして、健康科学研究所で病原体の検査を実施する。

(4) 疑似症定点

重症急性呼吸器症候群(SARS)や、生物テロを含む新興・再興感染症の発生を想定して、感染症法第14条に基づき平成19年4月1日から厚生労働省により運用が開始され、本市では平成20年度から開始した。平成31年4月1日から原因不明の重症の感染症の発生動向を早期に把握することを目的として、発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断した場合は保健所へ届出を行う。

(5) 病院検査室定点

神戸市独自の設置である毎月1日から月末までを単位とする月報とし、検査材料種別ごと(血液、便、髄液など)の検査件数と検出した病原体について翌月の10日までに調査票を健康科学研究所に送付する。

(6) 保健所

定点医療機関から報告された情報や、健康科学研究所での検査結果を集計し、国および兵庫県に報告する。また、これらの情報を感染症情報週報及び月報として、医療機関、福祉施設等の関係機関、ホームページ等を通して広く市民に還元しているほか、必要時には記者資料提供等を実施し、予防上の必要な事項の周知・啓発、不安の除去に努めている。さらに予防接種運営協議会へも資料を提供している。

(保健所ホームページ: <http://www.city.kobe.lg.jp/life/health/infection/>)

(7) 健康科学研究所

病原体定点等(インフルエンザ・小児科・眼科・性感染症・基幹病院)から提出された検査材料の検査を行い、病原体検出結果を保健所へ送付するとともに、国へも報告する。患者および病原体検出状況の疫学解析を行い、病原体の流行状況について保健所を通して広く医療機関や市民に情報提供する。また、感染症の話題を作成し、注目すべき感染症についての情報提供を行う。

令和4(2022年)患者発生および病原体検出状況

1. 全数把握対象疾病(表1～7)

(1) 一類感染症

届出なし。

(2) 二類感染症

結核の新登録患者数は148人で70歳以上が114人、77%を占めている。罹患率(人口10万対)は9.8で、全国の罹患率(8.2)より高い状態が続いている。潜在性結核感染症(LTBI)新登録者数は60人で、接触者健診で発見される例よりも、リウマチ等の疾病の治療のため生物学的製剤や副腎皮質ステロイドなどを使用する際に、LTBI治療が必要となる例の割合が増加している。海外から日本語学校等へ入学してくる人が再び増加し、学校の健診で発見される結核患者が増加傾向にある。

(3) 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症33例の届出があった。7例がHUS(溶血性尿毒症症候群)を発症し、8例が職場の定期検便で、6例が家族等接触者検便で探知された。

(4) 四類感染症

レジオネラ症36例中33例が肺炎型であった。日本紅斑熱は7例、つつが虫病は2例の届出があった。E型肝炎3例とA型肝炎1例の推定感染地域は全て国内であった。デング熱2例とマラリア1例は国外での感染であった。

(5) 五類感染症

梅毒が139例と最も多く、男性99例うち58例が性風俗産業利用歴有、女性40例うち15例が性風俗産業従事歴有であった。後天性免疫不全症候群は14例うち7例が30代男性であった。侵襲性肺炎球菌感染症18例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、急性脳炎9例、アメーバ赤痢5例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘(入院例に限る。)3例、ジアルジア症2例、播種性クリプトコックス症2例、ウイルス性肝炎(B型)1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、百日咳1例、麻しん1例の届出があった。

2. 定点把握対象疾患(表8～12)

(1) インフルエンザ定点(48カ所)

2022年第1週(1/3～9)に、2021/22シーズン初の報告が1例あり、第10週(3/8～14)から第26週(6/28～7/4)の間は報告がなかったが、第27週(7/5～11)以降シーズン終了間近の第33週(8/16～22)までで断続的に計39例の報告があった。その後、2022/23シーズンに入り、第36週(9/6～12)以降年末までの間も引続き断続的に、計170例の報告があり、最終週の第52週(12/27～1/2)には定点当たり報

告数 0.98 と流行期の目安 1.0 に迫った。

(2)小児科定点(31 カ所)

RS ウイルス感染症の報告は、過去 5 年間にはない大きな流行となった昨年の半数以下であった。咽頭結膜熱、水痘、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎は、昨年より減少し、過去 5 年間と比較しても最少であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎は、昨年とほぼ同数の報告であった。手足口病は、昨年より減少した。

(3)眼科定点(10 カ所)

急性出血性結膜炎の報告は 2 例で、昨年同様少なかった。流行性角結膜炎の報告は 61 例で、昨年とほぼ同数であった。

(4)性感染症定点(12 カ所)

性器クラミジア感染症の報告は 363 例で昨年の 1.2 倍、性器ヘルペスウイルス感染症は 77 例と過去 5 年間で最少、尖圭コンジローマ 56 例で昨年と同数、淋菌感染症 120 例で昨年の 1.3 倍となり、過去 5 年間で最多であった。

(5)基幹定点(3 カ所)

対象疾病のいずれも報告数が昨年より減少した昨年より増加した。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が 137 例と過去 5 年で最も多い報告数となり、薬剤耐性緑膿菌感染症も 6 例であった。

(6)疑似症定点(7 カ所)

令和4年4月 27 日厚労省事務連絡「欧州及び米国における小児の原因不明の急性肝炎の発生について(協力依頼)」を受け、疑似症定点1か所から4例の届出があった。

その他の届出はなかった。届出対象の疑似症は、P.5 参照。

3.病院検査室定点

神戸市では感染症発生動向調査事業実施要綱に定められている病原体定点(健康科学研究所で検査を実施)に加え、より多くの情報を収集・分析するため、独自に「病院検査室定点」を設置している。2022 年は 13 病院、1 検査機関(1月から7月まで)を設置している。

毎月「病院検査室定点」の検査室で検査した検体について、検体種別ごとの検査件数と検出した病原体に関する情報を報告いただいている(表 13)。

2022 年も昨年、一昨年と同様、新型コロナウイルスに対する社会の感染予防対策及び個人の感染予防行動が他の感染症への予防にもつながっており、検出状況に大きく影響を与えていると考えられる。

(1)糞便(図1、表 14~16、表 25)

4,218 件中 439 件から細菌性の病原体が検出され(検出率 10.4%)、その内訳はカンピロバクター属菌

(65.6%)、黄色ブドウ球菌(14.8%)、サルモネラ属菌(13.7%)、下痢原性大腸菌(2.1%)で、それぞれの検出率は2021年と比較して大きく変化は見られない。カンピロバクター属菌の内、91.3%はカンピロバクター・ジェジュニであった。サルモネラ属菌の血清型はO4群が多く、続いてO8群、O9群であった。下痢原性大腸菌の検出率は2018年(11.1%)、2019年(2.5%)、2020年(1.5%)、2021年(1.2%)とここ4年間は低い状況である。下痢原性大腸菌のすべてを腸管出血性大腸菌が占めておりその検出数は9件で、報告数は2019年(17件)、2020年(11件)、2021年(7件)となっている。血清型はO157が7件(毒素型:VT2;6件、VT1/VT2;1件)、O26が2件(毒素型:VT1)であった(表25)。

ウイルスは、1,327件中91件から検出され(検出率6.9%)、その内訳はアデノウイルス40/41型(44.0%)、ノロウイルス(45.1%)、ロタウイルス(11.0%)であった。検出率は2017年以降十数%で推移していたが、2020年以降半減した。検出内訳は昨年と比較して、アデノウイルスは増加(昨年12.1%)し、ノロウイルスは減少(昨年87.9%)した。

原虫は赤痢アメーバが1件、ランブル鞭毛虫が1件検出された。

(2) 穿刺液(図2、表17)

5,083件中1,145件から細菌性の病原体が検出され(検出率22.5%)、その内訳は嫌気性菌(26.6%)、大腸菌(25.5%)、肺炎桿菌(12.8%)、黄色ブドウ球菌(10.7%)であった。

(3) 髄液(表18)

1,635件中21件から病原体が検出され(検出率1.3%)、その内訳は黄色ブドウ球菌(11件)、肺炎レンサ球菌(3件)、インフルエンザ菌(2件)、クリプトコックス・ネオフォルマンズ(2件)、大腸菌(1件)、リステリア・モノサイトゲネス(1件)、B群レンサ球菌(1件)であった。

真菌であるクリプトコックス・ネオフォルマンズが昨年は1件検出されたが、今年は基礎疾患を持つ患者2名(自己免疫性肝炎患者1名、大腸ポリープ・総胆管結石患者1名)から検出され、2名とも血液からも検出された。クリプトコックス・ネオフォルマンズは、主に肺や皮膚から感染して病巣を形成し、肺クリプトコッカス症を引き起こすことが多いが、腎疾患、膠原病、悪性腫瘍、糖尿病やステロイド投与などにより、中枢神経系に播種、脳髄膜炎を起こすことがある¹⁾。

(4) 咽頭及び鼻咽頭(図3、表19)

7,134件中178件から細菌性の病原体が検出され(検出率2.5%)、2017年当時10%前後であった検出率が2020年(2.9%)以降大きく減少している。その内訳は肺炎レンサ球菌(52.8%)、インフルエンザ菌(39.3%)、A群レンサ球菌(7.9%)であった。以前はインフルエンザ菌の検出の割合が一番高かったが、2021年以降は肺炎レンサ球菌の検出が過半数を占めた。

細菌性の病原体の検出率が大きく減少した原因として、新型コロナウイルスへの感染予防対策を講じることにより、同じ感染経路を持つ他の病原体の感染対策に効果があったと考えられる。

(5)尿(図4、表 20)

32,871 件中 17,760 件から病原体が検出され(検出率 54.0%)、その内訳は大腸菌(38.7%)、エンテロコッカス属菌(18.7%)、コアグラージェ陰性ブドウ球菌(14.5%)であった。

(6)血液(図5、表 21)

78,049 件中 5,395 件から病原体が検出され(検出率 6.9%)、その内訳は大腸菌(32.5%)、コアグラージェ陰性ブドウ球菌(26.1%)、黄色ブドウ球菌(16.4%)、肺炎桿菌(9.9%)であった。リステリア・モノサイトゲネスが7件検出され、2012 年以降毎年検出が続いている。リステリア・モノサイトゲネスは人獣共通感染症であるリステリア症の原因菌であり、食品媒介感染症として注目されている²⁾。

(7)喀痰、気管吸引液および下気道からの材料(図6、表 22)

26,777 件中 7,066 件から細菌性の病原体が検出された(検出率 26.4%)。その内訳は黄色ブドウ球菌(42.7%)、緑膿菌(20.2%)、肺炎桿菌(16.5%)で、2021 年と同様の検出状況であった。レジオネラ・ニューモフィラが4月、6月、7月、8月、11 月に各1件検出された。

(8)尿道または子宮頸管擦過(分泌)物(図7、表 23)

7,210 件中 1,247 件から病原体が検出され(検出率 17.3%)、その内訳は B 群レンサ球菌(56.7%)、カンジダ・アルビカンス(39.5%)であった。ここ数年にわたって、この2菌種の割合が高くなっている。

(9)検出された黄色ブドウ球菌の内訳(表 24)

検出された黄色ブドウ球菌 4,911 件中、MRSA は 2,301 件(46.9%)検出された。2010 年に初めて MRSA の割合が70%を下回り、その後は低下傾向にあったが、ここ数年変化はない。検体別での MRSA の占める割合は、大便(66.2%)、喀痰(51.4%)、尿(42.6%)、血液(36.2%)、穿刺(33.3%)、髄液(9.1%)であった。また、検出された MRSA(2,301 件)の検体内訳は喀痰 1,549 件(67.3%)、尿 347 件(15.1%)、血液 320 件(13.9%)であり、喀痰からの検出が半数以上を占めた

参考文献

1)IASR Vol. 36 p. 185-186: 2015 年 10 月号

2)<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/525-l-monocytogenes.html>

4.病原体定点を含む神戸市の病原体検出状況(健康科学研究所)

健康科学研究所で行った定点医療機関からの検体を中心とした病原体検出状況について報告する。

細菌検出状況

1. 食中毒細菌

2022年は市内の食中毒疑い事例関連の227検体の検査を実施し、88株の下痢症原因菌が検出された。そのうち黄色ブドウ球菌が29株と最も多く検出された(33%)。2022年は市内で4例の食中毒事例が発生し、うち3事例が細菌性の食中毒事例であった。これらの事例に付随する検査でサルモネラ・エンテリティディスを16株、黄色ブドウ球菌(コアグラゼⅡ型、エンテロトキシンD型)を9株、エンテロトキシン産生ウエルシュ菌を6株、カンピロバクター・ジェジュニを5株検出した。上記黄色ブドウ球菌とウエルシュ菌は同一事例の患者から分離され、混合感染であることが疑われた。

この他に、腸管出血性大腸菌の接触者および治癒確認検便を計9件実施したが腸管出血性大腸菌は検出されなかった。また、食中毒事例のふき取り検査でセレウス菌を12株検出した。

2. 下痢症原因菌

本年は、食中毒調査以外で細菌検査の依頼は全くなかった。

3. A群溶血性レンサ球菌感染症

2022年は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎疑い患者検体の搬入はなかった。

4. STD(性感染症)(表26)

男性の尿道分泌物3検体について、淋菌の分離培養を実施した結果、3検体とも培養陰性であった。また、男性の尿道分泌物3検体中1検体から、クラミジア・トラコマチスが検出された。

5. その他の細菌(表27)

a) レジオネラ症

喀痰3検体から、*Legionella pneumophila* 血清群1(1株)、血清群2(1株)、*Legionella longbeachae* 血清群1(1株)を分離した。また、患者由来菌株 *Legionella pneumophila* 血清群1(2株)、血清群2(1株)、血清群6(1株)を収集した。

Legionella pneumophila の SBT(Sequence-based typing)による遺伝子型別解析の結果、血清群1の3株の遺伝子型はそれぞれ、ST138(国内独自の遺伝子型)、ST591、ST736と同定した。ST138は浴槽水分離株が多く含まれるグループ、ST591は土壌・水たまり分離株が多く含まれるグループ、ST736は感染源不明の臨床株が多く含まれるグループに存在する遺伝子型であった。また、血清群2の2株の遺

伝子型はともに ST354、血清群 6 の遺伝子型は ST1994(臨床からは初めての分離例)と同定した。

b) 侵襲性肺炎球菌感染症

ワクチン接種済みの小児侵襲性肺炎球菌感染症 3 検体の血清型について、PCR 法と膨化法により、15B(1 検体)、15C(1 検体)、35B(1 検体)と同定した。検出された血清型はいずれも、結合型 13 価ワクチン(PCV13)には含まれない血清型であった。また、成人の侵襲性肺炎球菌感染症 8 検体の血清型は、23A(3 検体)、3(1 検体)、19A(1 検体)、22F(1 検体)、23B(1 検体)、35B(1 検体)と同定した。莢膜多糖体 23 価ワクチン(PPSV23)接種済みの成人 2 名から検出された血清型 23A は、本ワクチンには含まれない血清型であった。

c) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

届出された侵襲性インフルエンザ菌感染症 5 件について、PCR 法による莢膜型別を実施した。その結果、インフルエンザ菌の莢膜型は non-typable(3 検体)、f 型(2 検体)と同定した。

d) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症として届出された腸内細菌科細菌 15 株の検査を実施した。検出部位は、血液(5 株)、喀痰(3 株)、尿(3 株)、膿(2 株)、腹水(1 株)、胆汁(1 株)であった。また菌種は、*Klebsiella aerogenes* (6 株)、*Enterobacter cloacae* complex(5 株)、*Klebsiella pneumoniae* (2 株)、*Enterobacter kobei* (1 株)、*Serratia marcescens* (1 株)であった。

ディスク法による β -ラクタマーゼ産生のスクリーニングおよび薬剤耐性遺伝子の保有状況を調べた。その結果、クラス C β -ラクタマーゼ産生が示唆された菌種は *Klebsiella aerogenes* (6 株)、*Enterobacter cloacae* complex(5 株)、*Serratia marcescens* (1 株)であった。*Enterobacter cloacae* complex の 2 株から EBC 型 β -ラクタマーゼ、1 株から DHA 型 β -ラクタマーゼを検出した。

クラス A β -ラクタマーゼのみ検出された菌種は *Klebsiella pneumoniae* (2 株)、*Enterobacter kobei* (1 株)であった。2 株の *Klebsiella pneumoniae* からは CTX-M-1 型、TEM 型、SHV 型 β -ラクタマーゼを検出した。*Enterobacter kobei*からは、カルバペネマーゼである KPC-2 β -ラクタマーゼと CTX-M-9 型 β -ラクタマーゼを検出した。

e) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出された 3 件の劇症型溶血性レンサ球菌を収集した。内訳は、A 群溶血性レンサ球菌 2 株、B 群溶血性レンサ球菌 1 株であった。国立感染症研究所による菌株解析の結果、A 群溶血性レンサ球菌の T 型別については、TB3264(1 株)、型別不能(1 株)であった。T 型別不能であった 1 株はエリスロマイ

シンに耐性を示し、薬剤耐性遺伝子として *ermA* 遺伝子を保有していた。

f) ダニ媒介性細菌

日本紅斑熱については 16 件の検査を行い、7 例が陽性であった(去年は 9 件中 8 件陽性)。ツツガムシ病については、2 件の検査依頼があり 1 例が陽性であった(Kawasaki 型)。その他 SFTS については、1 件の検査依頼があったが陰性であった。

ウイルス検出状況 (表 28～30)

2022 年は 2021 年を大きく上回る新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が、第 6 波、第 7 波、第 8 波と続いた。COVID-19 検査検体を除く病原体サーベイランス検体数は、昨年と同様少数であり、70 件(うち陽性数 17 件)であった。神戸市において 2021 年に大流行した RS ウイルス感染症は、2022 年には流行の山は見られたもののコロナ前の 2019 年と同程度の流行にとどまり、全国的にも同様であった。その他、少数ではあるが検出したウイルスについて、以下に述べる。

1) 新型コロナウイルス

行政検査として 4,153 検体の検査を実施し、1,068 検体から SARS-CoV-2 を検出した。2022 年の流行はいずれも大規模なものであったが、各医療機関や民間の検査会社での検査が定着し、抗原検査キットも普及したことから、行政検査として研究所に搬入された検体数は 2020 年、2021 年と比べ減少した。一方、行政検査検体に加え、市内の医療機関や検査会社で陽性となった検体を収集し、より広範囲のゲノムサーベイランスを実施した。24,559 検体の陽性検体に対して変異株検出用 PCR を実施し、各時期に流行している遺伝系統を推定すると共に、警戒すべき遺伝系統を迅速に探知できる体制を整えた。さらに、10,786 検体については全ゲノム解析を実施し、分子系統の把握、院内や地域における感染伝播様式の検証等、得られた情報を適宜保健所へ還元し、公衆衛生対策として活用した。

2) エンテロ/ライノウイルス、パレコウイルス

手足口病の 5 事例中 1 事例からコクサッキーウイルス A 群 6 型(CA6)、3 事例からコクサッキーウイルス A 群 16 型(CA16)、1 事例からライノウイルスを検出した。手足口病およびヘルパンギーナは、神戸市においては 2021 年の流行を下回ったが、全国的にみると手足口病については 2021 年以上の流行となっている。また、無菌性髄膜炎 2 事例のうち、1 事例の便からパレコウイルス 4 型を検出した。

3) ノロウイルス

2022 年の当研究所への下痢症サーベイランス検体搬入は 0 件であった。また、市内で発生した 5 件

の食中毒疑い事例について下痢症ウイルス検査を実施したが、ノロウイルスは検出されなかった。

4) 麻しん・風しんウイルス

麻しん疑い 3 事例、風しん疑い 5 事例についてリアルタイム RT-PCR 法により遺伝子検査を実施したが、全て陰性であった。

5) インフルエンザウイルス

新型コロナウイルス発生以降、日本国内では 2020/21、2021/22 シーズンの 2 シーズン連続でインフルエンザの流行がなかった。水際措置が緩和された 2022/23 シーズンは久しぶりの流行となったが、注意報レベル(定点当たり報告数 10 を超える)にとどまり、警報レベル(定点当たり報告数 30 を超える)の流行には至らなかった。2022 年 1 月から 2023 年 4 月までに当所で検出、分離したウイルスは全て A/H3 亜型であった。全国的にも 2022/23 シーズンに検出されたほとんどを A/H3 亜型が占めており、A/H1pdm 亜型、B/ビクトリア系統は少数となっている。B/山形系統については、国内の検出報告はゼロであり、世界的にも報告が見られなくなっている。

6) ヒトメタニューモウイルス(hMPV)

市内の高齢者施設で肺炎症状を呈する患者が複数発生し、検査した 7 検体のうち 2 検体から hMPV を検出した。神戸市では 2018 年にも hMPV が原因と考えられる同様の事例が発生している。乳幼児や高齢者では下気道炎に至って重症化する場合もあり、特に集団生活を行う高齢者施設等では注意が必要である。

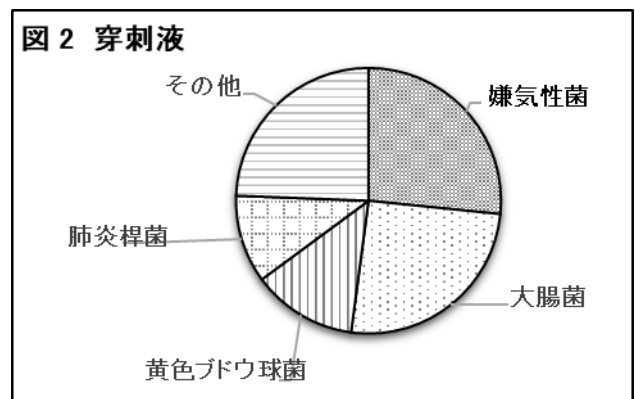
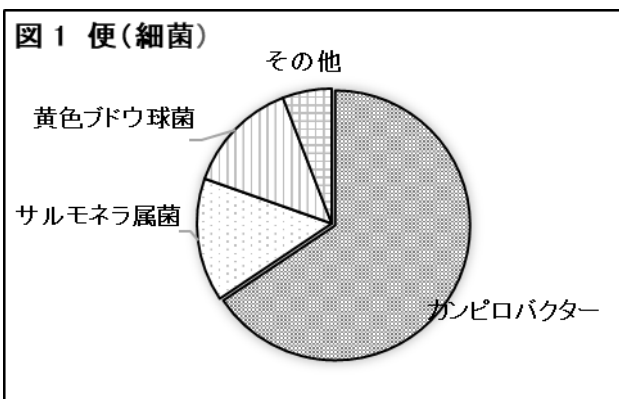


図3 咽頭及び鼻咽頭

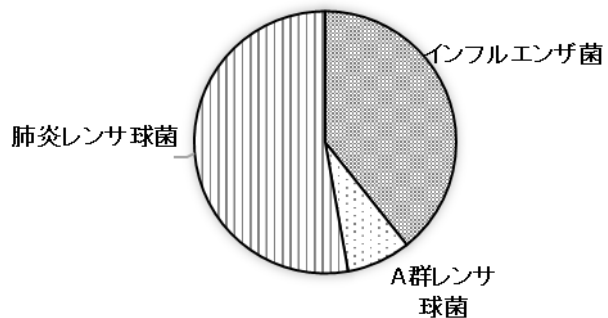


図4 尿

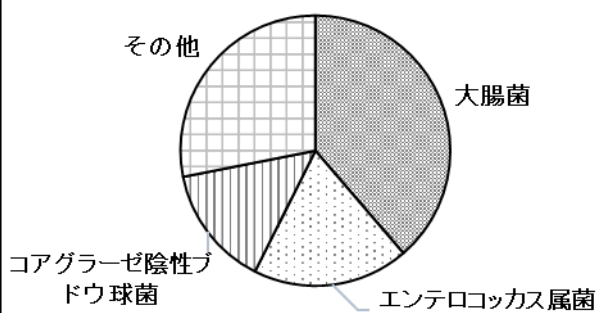


図5 血液

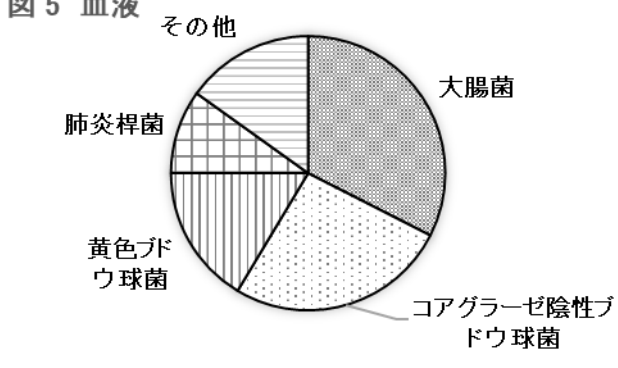


図6 下気道

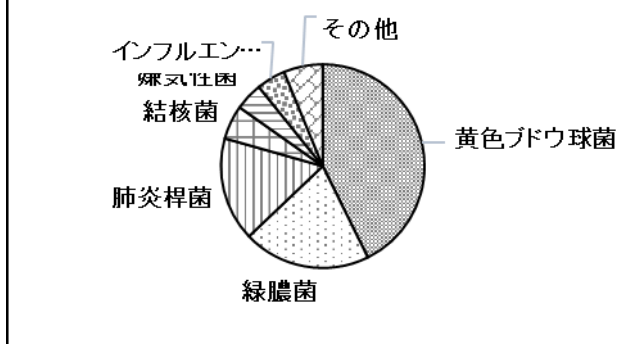


図7 尿道または子宮頸管擦過物

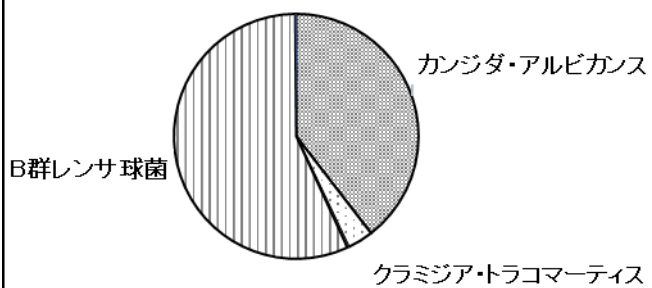


表1 神戸市感染症発生動向調査年別患者報告数(全数把握対象感染症)

類型	感染症名	4年												3年	2年	元年	30年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					累積数	
二類	結核	結核については、P.7および下記※をご参照下さい。																	
三類感染症	コレラ														0		0	0	1
	細菌性赤痢														0		0	1	4
	腸管出血性大腸菌感染症				1	1	5	7	4	3	7	3	2	33	25	49	64	22	
	腸チフス													0		0	2	0	
	パラチフス													0		0	0	2	
	小計	0	0	0	1	1	5	7	4	3	7	3	2	33	25	49	67	29	
四類感染症	E型肝炎			1	2								3	1	2	5	4		
	A型肝炎						1						1		0	2	8		
	チクングニア熱												0		0	2	0		
	つつが虫病										1	1	2		1	4	2		
	デング熱					2							2		2	4	2		
	日本紅斑熱				1	1	3				2		7	9	5	6	1		
	マラリア										1		1	1	0	1	1		
	レジオネラ症	1	2	2	1	5	7	6	5	3	1	3	36	23	29	23	28		
	レプトスピラ症												0		1	0	0		
	小計	1	2	3	4	8	11	6	5	3	4	4	52	34	40	47	46		
五類全数把握感染症	アメーバ赤痢			2	1						2		5	8	10	8	6		
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）											1	1	2	2	3	5		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1	1	2		1	1	6		1	2	17★	15	14	16	16	
	急性弛緩性麻痺												0		0	0	4		
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）			2		2		1	2	1	1		9	13	8	20	22		
	クリプトスポリジウム症												0		0	1	0		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1											1		1	0	3		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	2								3	9	11	18	13		
	後天性免疫不全症候群	1	2	1	1	1	2		2	2	1		14	17	17	11	7		
	ジアルジア症			1					1				2		1	0	2		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1			1	1					1		5	5	1	4	11		
	侵襲性髄膜炎菌感染症												0		0	2	2		
	侵襲性肺炎球菌感染症		2	2	1				1	2	3	5	2	18	13	30	58	75	
	水痘（入院例）	1							1		1		3	3	11	9	5		
	梅毒	4	12	3	7	12	9	18	15	14	24	8	13	139	109	72	96	110	
	播種性クリプトコックス症		1				1						2	1	1	1	2		
	破傷風												0		2	1	0		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症												0		0	0	0		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症												0		0	0	1		
	百日咳					1							1	2	14	176	94		
	風しん												0		3	13	9		
	麻しん	1											1		0	41	0		
薬剤耐性アシネトバクター感染症												0		0	0	0			
小計	10	17	13	14	19	12	20	23	25	33	14	21	221	197	198	478	387		
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ												0		0	0	0		
	再興型インフルエンザ												0		0	0	0		
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	22,107	39,610	23,453	17,091	12,771	6,612	57,639	97,091	25,626	8,461	18,158	45,162	373,781	24,132	3,419	
合計（結核を除く全数把握感染症）		22,118	39,629	23,469	17,110	12,799	6,640	57,672	97,123	25,657	8,685	18,179	45,186	374,087	24,388	3,706	592	462	

★ うち1例はR5.1.1診断分

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正（施行日：平成28年4月1日）に伴う分類表示

診断年月日での集計結果なので、過去の報告結果とは異なる部分があります。

届出のなかった感染症は掲載していません

※結核の発生状況

	4年	3年	2年	31/元年	30年
新登録結核患者数	148	201	213	262	260
潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数	60	64	68	83	107

表2 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(神戸市)

令和4年第1週(1/3-9)～第52週(12/26-R5/1/1)診断分

番号	患者別	性別	年齢区分	住所	発病月日	初診月日	診断月日	血清型	VT型
1	無症状病原体保有者	女	60代	須磨	-	4.27	4.28	O157	VT2
2	患者	女	50代	西	5.26	5.27	5.30	O157	VT1VT2
3	患者	女	40代	東灘	6.5	6.6	6.10	O157	VT2
4	無症状病原体保有者	女	50代	東灘	-	6.10	6.17	O128	VT1VT2
5	患者	男	0～4歳	兵庫	6.22	6.24	6.27	O157	VT2
6	無症状病原体保有者	男	10代	西	-	6.29	6.29	O137:H41	VT2
7	無症状病原体保有者	女	30代	兵庫	-	6.28	6.30	O157	VT2
8	患者	男	0～4歳	北	7.3	7.6	7.8	O26	VT1
9	患者	男	50代	市外	7.6	7.7	7.12	O157	VT2
10	患者	女	0～4歳	垂水	7.7	7.11	7.13	O157	VT2
11	無症状病原体保有者	女	40代	北	-	7.10	7.13	O26	VT1
12	無症状病原体保有者	男	0～4歳	北	-	7.10	7.13	O26	VT1
13	無症状病原体保有者	男	70代	北	-	7.11	7.13	O26	VT1
14	患者	女	20代	北	7.12	7.12	7.16	O157	VT1VT2
15	患者	女	20代	垂水	8.10	8.12	8.15	O157	VT1VT2
16	患者	男	20代	垂水	8.6	8.16	8.16	O157	VT1VT2
17	無症状病原体保有者	男	30代	須磨	-	8.24	8.24	O157	VT1VT2
18	無症状病原体保有者	女	50代	市外	-	8.25	8.29	O157	VT2
19	患者	男	0～4歳	灘	9.8	9.15	9.20	O157	VT1VT2
20	患者	男	5～9歳	須磨	9.17	9.21	9.26	O157	不明
21	患者	女	40代	西	9.23	9.24	9.26	O157	VT2
22	患者	女	10代	市外	10.9	10.15	10.17	O157	不明
23	無症状病原体保有者	男	40代	垂水	-	10.17	10.17	O157:H7	VT2
24	無症状病原体保有者	女	40代	東灘	-	10.18	10.18	O血清群不明	VT2
25	患者	男	20代	北	10.15	10.16	10.19	O157H7	VT2
26	患者	男	0～4歳	西	10.13	10.14	10.20	O157	VT1
27	患者	女	5～9歳	市外	9.29	10.3	10.21	O165	VT2
28	患者	男	10代	北	10.20	10.23	10.26	O157	VT1VT2
29	無症状病原体保有者	女	40代	北	-	10.30	11.2	O157	VT1VT2
30	患者	女	10代	北	10.19	10.31	11.2	O157	VT1VT2
31	無症状病原体保有者	男	20代	須磨	-	11.5	11.11	O157	VT2
32	患者	男	20代	長田	12.1	12.5	12.9	O157	VT1VT2
33	患者	女	20代	垂水	12.6	12.8	12.13	O157	VT2

※2006年4月に感染症発生届出基準が一部改正され、溶血性尿毒症症候群(HUS)発症例に限って、便からVero毒素を検出した場合や患者血清からO抗原凝集抗体または抗Vero毒素抗体を検出した場合にも届出が必要となりました。

表3 腸管出血性大腸菌感染症 発生状況(神戸市 平成8年～令和4年)

表3-1 月別発生状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成8年						2	8	6	11	1	3	4	35
平成9年	0	1	0	2	1	2	8	23	2	2	1	0	42
平成10年	1	2	2	0	6	10	27	9	3	6	3	2	71
平成11年	0	1	3	0	4	25	9	22	13	27	3	1	108
平成12年	2	1	2	1	12	12	8	13	15	7	0	1	74
平成13年	0	0	0	4	9	9	15	18	22	9	2	3	91
平成14年	0	1	0	4	14	3	9	7	7	2	1	0	48
平成15年	1	1	2	0	0	2	6	6	5	3	5	0	31
平成16年	1	0	0	0	11	5	6	11	7	5	9	5	60
平成17年	2	0	2	1	2	4	4	12	3	6	0	2	38
平成18年	0	1	0	0	4	9	7	11	4	5	0	3	44
平成19年	0	2	1	0	4	12	12	12	14	6	4	15	82
平成20年	1	4	0	1	3	11	8	6	5	3	2	3	47
平成21年	0	1	4	0	4	4	4	10	14	2	2	1	46
平成22年	1	0	2	4	2	4	5	8	5	6	3	14	54
平成23年	0	1	0	0	5	10	12	9	3	4	2	0	46
平成24年	0	0	0	0	3	1	2	8	1	3	0	0	18
平成25年	0	2	0	2	2	15	0	9	4	2	1	3	40
平成26年	1	0	0	0	0	2	5	4	1	2	0	4	19
平成27年	0	0	1	0	3	2	7	3	4	0	0	4	24
平成28年	2	0	0	0	0	3	11	7	2	6	3	0	34
平成29年	0	0	0	0	2	5	4	10	9	3	2	1	36
平成30年	0	0	0	2	2	1	7	2	5	2	1	0	22
平成31/令和元年	1	2	1	0	3	13	8	4	16	9	5	2	64
令和2年	2	0	0	0	0	4	6	5	12	1	13	6	49
令和3年	0	1	0	1	1	0	7	4	3	2	5	1	25
令和4年	0	0	0	1	1	5	7	4	3	7	3	2	33
合計	15	21	20	23	98	175	212	243	193	131	73	77	1281

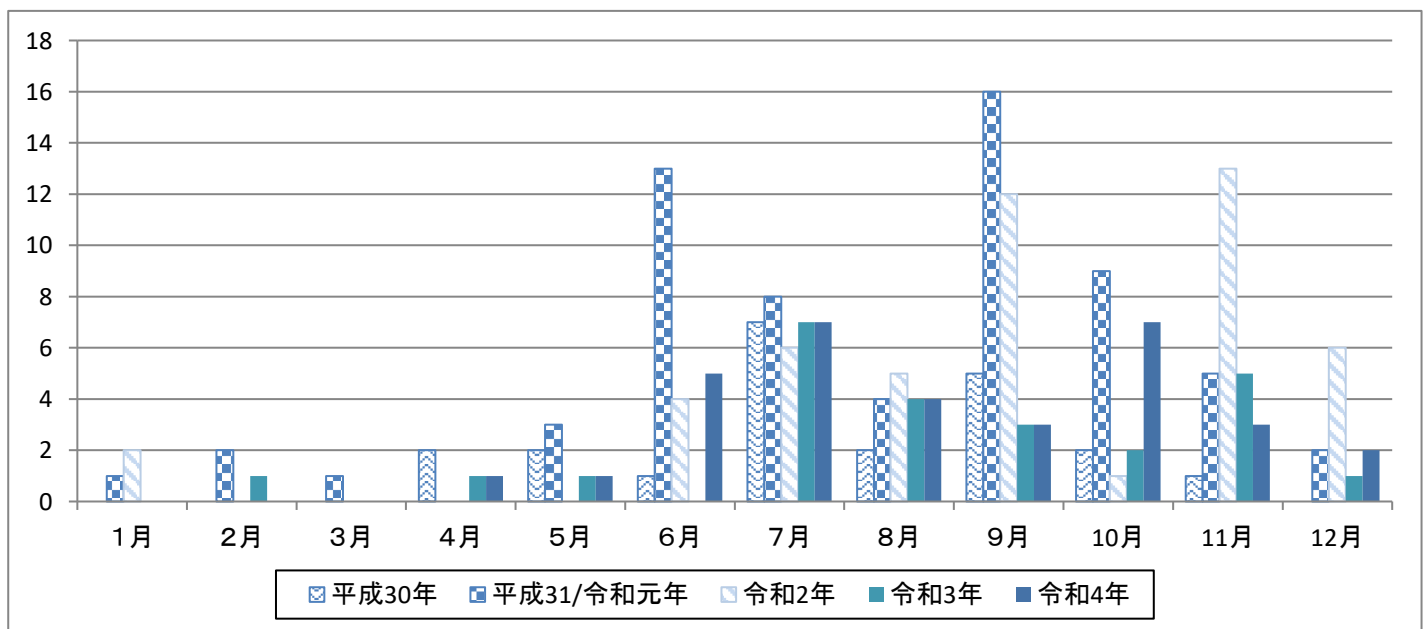


表3-2 年齢別発生状況

	0～4歳	5～9歳	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
平成8年	11	6	7	7	3	1	0	35
平成9年	23	3	3	6	3	2	2	42
平成10年	22	21	4	7	9	6	2	71
平成11年	30	16	8	15	14	10	15	108
平成12年	8	18	10	15	8	6	9	74
平成13年	12	8	13	19	11	8	20	91
平成14年	4	8	8	10	5	5	8	48
平成15年	5	5	6	6	2	1	6	31
平成16年	9	15	11	8	1	4	12	60
平成17年	9	9	6	5	4	1	4	38
平成18年	10	1	6	8	4	6	9	44
平成19年	18	9	20	10	11	3	11	82
平成20年	10	8	10	12	2	3	2	47
平成21年	3	8	5	18	4	2	6	46
平成22年	6	8	7	14	7	5	7	54
平成23年	7	11	6	7	7	2	6	46
平成24年	3	3	1	3	2	4	2	18
平成25年	9	4	10	5	5	4	3	40
平成26年	2	4	3	3	2	1	4	19
平成27年	4	3	4	5	4	0	4	24
平成28年	5	11	3	4	5	2	4	34
平成29年	5	4	5	4	3	7	8	36
平成30年	2	0	4	8	0	5	3	22
平成31/令和元年	17	4	12	12	8	5	6	64
令和2年	4	11	8	7	1	4	14	49
令和3年	5	5	3	5	1	5	1	25
令和4年	6	2	4	7	2	6	6	33
合計	249	205	187	230	128	108	174	1281

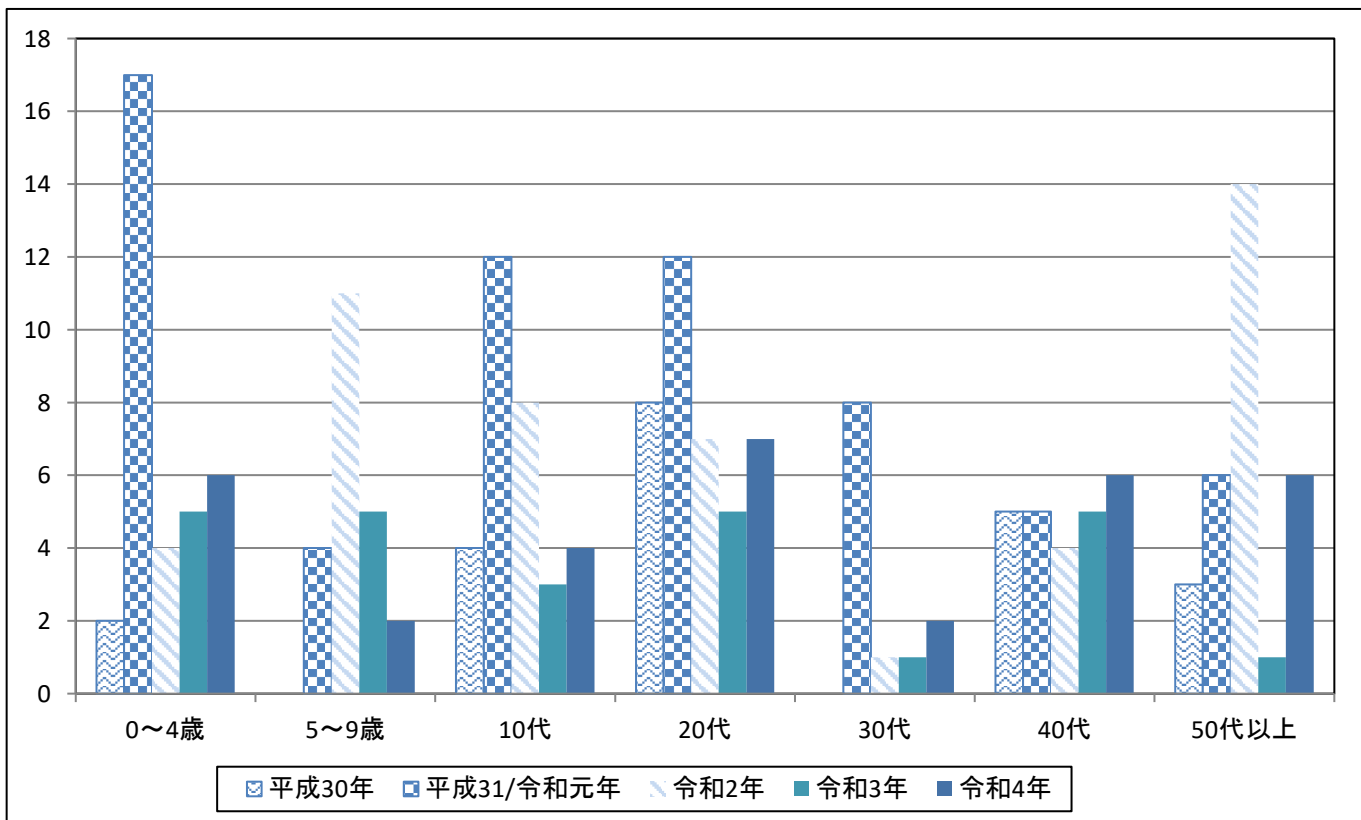


表3-3 区別発生状況(患者居住地)

	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	市外	合計
平成8年	3	4	7	1	2	0	4	2	12	0	35
平成9年	2	0	5	3	15	6	1	9	1	0	42
平成10年	1	9	4	2	10	1	3	29	9	3	71
平成11年	10	7	3	3	24	13	13	12	22	1	108
平成12年	10	10	4	2	8	4	11	5	15	5	74
平成13年	18	14	8	4	6	7	6	9	9	10	91
平成14年	2	1	3	4	7	1	12	2	10	6	48
平成15年	1	2	1	2	5	4	4	6	4	2	31
平成16年	5	3	6	1	11	3	7	6	14	4	60
平成17年	3	5	6	2	4	0	3	3	9	3	38
平成18年	4	2	4	11	7	1	5	1	6	3	44
平成19年	10	15	4	6	14	3	5	6	14	5	82
平成20年	4	2	5	0	5	2	8	9	7	5	47
平成21年	4	2	5	2	6	6	6	5	4	6	46
平成22年	4	5	3	3	4	4	5	3	13	10	54
平成23年	5	2	3	1	8	7	5	3	8	4	46
平成24年	1	2	1	0	4	0	1	1	6	2	18
平成25年	11	1	3	2	8	1	6	2	4	2	40
平成26年	2	1	2	0	4	0	2	0	4	4	19
平成27年	1	1	1	2	4	2	2	1	8	2	24
平成28年	4	3	3	1	5	1	1	6	7	3	34
平成29年	4	9	1	4	3	3	1	5	4	2	36
平成30年	4	2	2	0	5	2	1	0	4	2	22
平成31/令和元年	7	4	13	5	9	5	6	5	4	6	64
令和2年	1	5	7	2	5	3	12	3	7	4	49
令和3年	3	2	4	0	8	2	4	1	1	0	25
令和4年	3	1	0	2	9	1	4	5	4	4	33
合計	127	114	108	65	200	82	138	139	210	98	1281

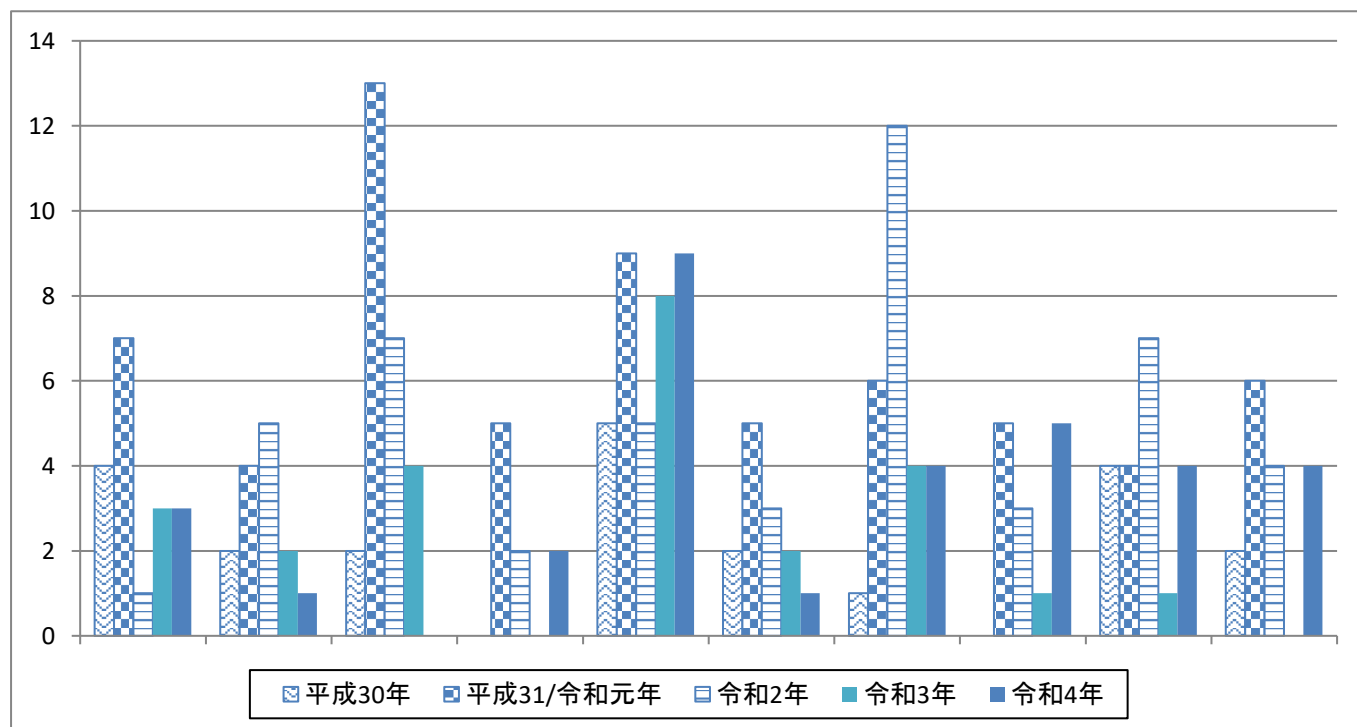


表3-4 血清型別・患者・保菌者別発生状況

	0157	0157	026	026	01	06	08	018	025	091	0103	0111	0115	0121	0126	0128	0137	0143	0145	0146	0165	0168	OUT	
	患者数	保菌者数	患者数	保菌者数	患者数	保菌者数	保菌者数	患者数	患者数	患者/保菌者	患者/保菌者	患者数	患者/保菌者	患者数	患者数	患者/保菌者	保菌者数	患者数	患者/保菌者	保菌者数	患者数	患者/保菌者	患者/保菌者	
平成8年	25	6										4												
平成9年	18	21	3																					
平成10年	28	41	2																					
平成11年	47	44	5	12																				
平成12年	34	30	6	2								1			1									
平成13年	44	42	2	1								2												
平成14年	27	18	1		1	1																		
平成15年	19	10	2																					
平成16年	38	18	4																					
平成17年	19	8	9	1								1												
平成18年	29	11	3												1									
平成19年	40	22	7	1				1	1	1				5					1					3
平成20年	29	9	4							1				1		1			2					
平成21年	34	6	2							1				1		1								1
平成22年	46	5	2										1											
平成23年	28	7	2	2							2	1		1					3					
平成24年	13	2	2	1																				
平成25年	25	6	5	1				1		1				1										
平成26年	13	2	2	1																				1
平成27年	10	5	2	1										1					1		2			2
平成28年	25	9																						
平成29年	17	9	4									1		1		1		1	2				1	
平成30年	11	3	1	1			1							2					2					1
平成31/令和元年	31	13	1									1							14					4
令和2年	22	9	4	3									1			1				2				7
令和3年	10	3	7	2							1	1												1
令和4年	18	7	1	3												1	1					1		1
合計	700	366	83	32	1	1	1	2	1	4	3	12	2	13	2	5	1	1	25	2	3	1	21	

平成29年 混合感染1例(O121・O143)あり

表4 四・五類（全数把握）感染症 発生状況

疾患別発生状況

令和4年第1週(1/3-9)～第52週(12/26-R5/1/1)診断分

病名		病型／種別（病原体）	報告数	
四類	E型肝炎		3	52
	A型肝炎		1	
	つつが虫病		2	
	デング熱	デング熱	2	
	日本紅斑熱		7	
	マラリア	熱帯熱マラリア	1	
	レジオネラ症	肺炎型	33	
ポンティアック熱型		3		
五類	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	4	220
		腸管外アメーバ症	1	
	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	B型	1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter	7	
		Escherichia	2	
		Klebsiella	7	
		Serratia	1	
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、 東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及び リフトバレー熱を除く。)	SARS-CoV-2	2	
		単純ヘルペスウイルス	1	
		ヒトヘルペスウイルス6	2	
		ライノウイルス	1	
		病原体不明	3	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	孤発性プリオン病	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群	2	
		B群	1	
	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	6	
		AIDS	3	
		その他	5	
	ジアルジア症		2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	莢膜型 f型	2	
		莢膜型non-typable	3	
	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型 3(1) 15B/15C(2) 19A(1) 22F/22A(1) 23A(3) 23B(1) 35B(3)	12	
		血清型未実施	6	
水痘（入院例に限る。）	検査診断例	1		
	臨床診断例	2		
梅毒	早期顕症梅毒（Ⅰ期）	73		
	早期顕症梅毒（Ⅱ期）	38		
	晩期顕症梅毒	2		
	無症候（無症状病原保有者）	26		
播種性クリプトコックス病		2		
百日咳		1		
風しん	検査診断例	0	0	
	臨床診断例	0		
麻しん	検査診断例	1	1	
	臨床診断例	0		
計			273	

表5 四類（全数把握）感染症 発生状況

令和4年第1週(1/3-9)～第52週(12/26-R5/1/1)診断分

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／病原体	推定感染経路	推定感染地域	区名 (届出医療機関)
1	1.15	女	90代	レジオネラ症	ポンティアック熱型	不明	国内	東灘
2	2.11	女	80代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	須磨
3	2.28	女	80代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
4	3.2	女	60代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	灘
5	3.18	女	70代	E型肝炎	-	経口感染	国内	中央
6	3.25	男	80代	レジオネラ症	ポンティアック熱型	水系感染	国内	垂水
7	4.4	女	80代	E型肝炎	-	不明	国内	兵庫
8	4.9	男	70代	レジオネラ症	ポンティアック熱型	水系感染	国内	中央
9	4.14	男	70代	日本紅斑熱	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	垂水
10	4.25	男	80代	E型肝炎	-	不明	国内	兵庫
11	5.10	男	70代	日本紅斑熱	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	北須磨
12	5.8	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	北神
13	5.12	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	西
14	5.15	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	北神
15	5.18	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	塵埃感染	国内	垂水
16	5.19	男	40代	デング熱	デング熱	動物・蚊・昆虫等からの感染	国外（フィリピン）	灘
17	5.20	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	垂水
18	5.23	男	20代	デング熱	デング熱 (デングウイルス1型)	動物・蚊・昆虫等からの感染	国外（フィリピン）	中央
19	6.6	女	70代	日本紅斑熱	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	中央
20	6.13	女	80代	A型肝炎	-	経口感染	国内	西
21	6.17	男	70代	日本紅斑熱	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	中央
22	6.13	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	兵庫
23	6.21	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	中央
24	6.23	男	80代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	東灘
25	6.24	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
26	6.25	男	80代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	西
27	6.23	男	40代	日本紅斑熱	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	中央
28	6.29	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	塵埃感染	国内	北神
29	6.30	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	西
30	7.1	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	塵埃感染	国内	兵庫
31	7.3	男	80代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	北神
32	7.3	男	50代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
33	7.7	男	50代	レジオネラ症	肺炎型	塵埃感染	国内	長田
34	7.11	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
35	7.15	男	50代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	東灘
36	8.3	男	50代	レジオネラ症	肺炎型	塵埃感染	国内	中央
37	8.2	男	50代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	兵庫
38	8.13	男	30代	レジオネラ症	肺炎型	不明	不明	長田
39	8.19	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
40	8.18	男	90代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	北須磨
41	9.5	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	兵庫
42	9.8	男	80代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
43	9.12	男	80代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	西
44	10.9	男	80代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
45	10.19	男	30代	マラリア	熱帯熱マラリア	動物・蚊・昆虫等からの感染	国外（ギニア）	中央
46	10.31	男	50代	日本紅斑熱	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	中央
47	10.28	男	40代	日本紅斑熱	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	東灘
48	11.21	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	不明	不明	中央
49	11.21	男	60代	つつが虫病	-	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	西
50	11.24	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	中央
51	11.25	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染	国内	東灘
52	12.2	女	70代	つつが虫病	Kawasaki型	動物・蚊・昆虫等からの感染	国内	長田

表6-1 五類（全数把握）感染症 発生状況（麻しん・風しん以外）

令和4年第1週(1/3-9)～第52週(12/26-R5/1/1)診断分

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型/類型/病原体	推定感染経路/ワクチン接種歴	推定感染地域/感染原因	区名 (届出医療機関)
1	1.8	男	40代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter sp.、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法によりEBC型β-ラクタマーゼ検出	以前からの保菌(胆管)	国内	中央
2	1.11	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
3	1.11	女	50代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
4	1.15	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
5	1.21	男	20代	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	同性間性的接触	国内	中央
6	1.24	男	40代	水痘(入院例に限る。)	検査診断例	不明	不明	兵庫
7	1.24	女	10代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型non-tyable	不明	国内	中央
8	1.25	女	60代	クロイツフェルト・ヤコブ病	孤発性プリオン病	-	-	中央
9	1.20	女	30代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	不明	中央
10	2.1	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
11	2.2	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
12	2.3	男	30代	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	性的接触(同性異性不明)	国内	長田
13	2.5	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
14	2.9	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	中央
15	2.9	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
16	2.3	女	90代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35B	不明/不明	国内	中央
17	2.9	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
18	2.7	女	80代	播種性クリプトコックス症	-	免疫不全(自己免疫性肝硬変)	国内	西
19	2.10	男	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	東灘
20	2.14	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
21	2.24	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型未実施	不明/不明	不明	中央
22	2.21	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
23	2.24	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	不明	不明	中央
24	2.24	男	30代	後天性免疫不全症候群	AIDS	性的接触(同性異性不明)	国内	中央
25	2.25	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
26	3.2	女	60代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型未実施	他院からの転院/不明	国内	中央
27	3.4	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
28	3.3	男	30代	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	同性間性的接触	不明	中央
29	2.10	女	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
30	3.4	男	50代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群	不明	国内	東灘
31	3.11	男	0~4歳	急性脳炎	病原体不明	不明	国内	中央
32	3.9	女	70代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Klebsiella pneumoniae、 クラスAβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法によりCTX-M-1型、 TEM型、SHV型β-ラクタマーゼ検出	不明	国内	中央
33	3.14	男	40代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	国内	北須磨
34	3.15	男	40代	ジアルジア症	-	不明	国内	中央
35	3.23	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
36	3.26	男	0~4歳	急性脳炎	ライノウイルス	不明	国内	中央
37	3.25	男	90代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型未実施	飛沫感染/不明	国内	北須磨
38	3.29	男	60代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	異性間性的接触	国内	中央
39	3.31	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	西
40	4.5	男	70代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型non-tyable	不明/不明	不明	中央
41	4.6	女	0~4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型15B/15C	不明/あり(4回)	国内	北須磨
42	4.8	女	80代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter cloacae、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌(上下気道)	国内	中央
43	4.8	女	60代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群	不明	国内	中央
44	4.9	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
45	4.13	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	不明	中央
46	4.12	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
47	4.15	男	60代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	B群	創傷感染	国内	中央
48	4.19	男	50代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	国内	北神
49	4.20	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	不明	西
50	4.23	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
51	4.26	女	50代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	北神
52	4.25	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	不明	中央
53	5.8	男	0~4歳	急性脳炎	病原体不明	不明	国内	中央
54	5.9	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	不明	中央
55	5.9	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
56	5.2	女	60代	梅毒	無症状病原保有者	不明	不明	中央
57	5.12	男	30代	後天性免疫不全症候群	急性HIV感染症	性的接触(異性間か同性間かは不明)	不明	中央
58	5.6	女	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	西
59	5.14	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	不明	中央
60	5.16	女	60代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型 f型	不明/無	国内	長田
61	5.19	男	80代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Serratia marcescens、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	不明	不明	西
62	5.6	女	70代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter cloacae、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法によりDHA型β-ラクタマーゼ検出	以前からの保菌(膝)	国内	北神
63	5.11	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北神
64	5.19	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	長田
65	5.21	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	灘
66	5.25	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
67	5.28	女	20代	百日咳	-	飼い犬が先に発症/有(4回)	国内	垂水
68	5.27	女	30代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
69	5.30	男	0~4歳	急性脳炎	ヒトヘルペスウイルス6	不明	国内	中央
70	5.31	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
71	6.4	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	性的接触(異性間か同性間かは不明)	国内	中央
72	6.7	女	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	西

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／類型／病原体	推定感染経路／ワクチン接種歴	推定感染地域／感染原因	区名 (県出医師種別)
73	5.31	男	30代	後天性免疫不全症候群	AIDS	同性間性的接触	国内	中央
74	5.2	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	東灘
75	6.14	男	50代	梅毒	晩期顕症梅毒	性的接触(異性間か同性間かは不明)	不明	灘
76	6.15	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	灘
77	6.18	男	60代	後天性免疫不全症候群	下痢症	異性間性的接触	国内	中央
78	6.3	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
79	4.22	男	40代	後天性免疫不全症候群	急性レトロウイルス症候群	異性間性的接触	国外(ガボン)	中央
80	6.24	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	不明	不明	中央
81	6.28	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	西
82	6.27	男	80代	播種性クリプトコックス症	-	鳥類の糞などとの接触・免疫不全	国内	西
83	7.1	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
84	6.25	女	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	灘
85	6.25	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
86	7.5	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
87	7.6	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北須磨
88	7.7	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	西
89	7.8	女	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
90	7.8	女	70代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Klebsiella aerogenes、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌(便)	国内	中央
91	7.9	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
92	7.13	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	中央
93	7.4	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北神
94	7.13	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
95	7.17	男	0~4歳	急性脳炎	ヒトヘルペスウイルス6	不明	国内	中央
96	7.19	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北須磨
97	7.21	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	中央
98	7.20	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	性的接触(異性間か同性間かは不明)	不明	中央
99	7.20	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	不明	中央
100	7.20	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
101	7.22	女	10代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	長田
102	7.29	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
103	7.25	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
104	7.27	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	灘
105	8.3	男	30代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
106	8.5	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
107	8.6	女	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	灘
108	8.10	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	垂水
109	8.17	女	0~4歳	急性脳炎	SARS-CoV-2	不明	不明	中央
110	8.10	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
111	8.10	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	不明	中央
112	8.12	女	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
113	8.5	女	30代	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	不明	国外(ウクライナ)	中央
114	8.18	女	90代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter cloacae、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法によりEBC型β-ラクタマーゼ検出	不明	不明	中央
115	8.16	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
116	8.13	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	兵庫
117	8.17	男	30代	梅毒	晩期顕症梅毒	性的接触(異性間か同性間かは不明)	国内	中央
118	8.17	女	70代	急性脳炎	単純ヘルペスウイルス	不明	国内	北神
119	8.19	男	40代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35B	不明/無	国内	中央
120	8.26	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	西
121	8.27	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
122	8.29	男	50代	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	不明	国内	中央
123	8.27	男	50代	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	性的接触(異性間か同性間かは不明)	国内	中央
124	8.25	男	50代	ジアルジア症	-	不明	不明	中央
125	8.30	女	20代	梅毒	無症状病原保有者	不明	国内	中央
126	9.3	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
127	9.3	男	5~9歳	急性脳炎	SARS-CoV-2	飛沫・飛沫核感染	国内	中央
128	8.29	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
129	9.1	男	90代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Klebsiella aerogenes、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	医療器具関連感染(人工呼吸器)	国内	中央
130	9.9	男	80代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter cloacae、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	尿路カテーテル・膀胱結石	国内	中央
131	9.2	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
132	9.3	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
133	9.9	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
134	9.12	男	50代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Klebsiella aerogenes、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	尿路カテーテル	国内	中央
135	8.26	男	80代	梅毒	無症状病原保有者	不明	不明	北須磨
136	9.12	女	80代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Klebsiella pneumoniae、 クラスAβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法によりCTX-M-1型、 TEM型、SHV型β-ラクタマーゼ検出	手術部位感染(小腸切除後創部感染)	国内	長田
137	9.15	男	60代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Klebsiella aerogenes、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌(肺)	国内	中央
138	9.12	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北
139	9.16	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
140	9.20	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
141	9.24	男	5~9歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35B	不明/あり(4回)	国内	中央
142	9.20	男	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	長田
143	9.27	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
144	9.28	男	80代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Klebsiella aerogenes、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	院内感染(疑い)	国内	中央

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／類型／病原体	推定感染経路／ワクチン接種歴	推定感染地域／感染原因	区名 (届出医療機関)
145	9.28	男	30代	後天性免疫不全症候群	風邪様症状	性的接触(異性間か同性間かは不明)	国内	中央
146	9.26	男	40代	後天性免疫不全症候群	AIDS	同性間性的接触	国内	中央
147	9.28	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
148	9.28	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
149	9.30	男	60代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	北須磨
150	9.23	女	30代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型23A	不明／あり(2回)	国内	中央
151	9.30	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
152	10.1	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	東灘
153	10.1	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
154	10.4	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	灘
155	9.29	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	不明	不明	兵庫
156	10.5	男	20代	梅毒	無症状病原保有者	不明	不明	中央
157	10.7	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
158	10.7	女	80代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	北須磨
159	10.7	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
160	10.7	男	40代	アメーバ赤痢	腸管外アメーバ症	汚染水	国外(フィリピン)	中央
161	10.11	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
162	10.11	男	30代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
163	10.7	男	30代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型23B	不明／無	国内	中央
164	10.13	男	80代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型non-typable	飛沫・飛沫核感染(詳細不明)／無	国内	長田
165	10.14	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	西
166	10.15	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
167	10.8	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	長田
168	10.13	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	長田
169	10.17	男	0~4歳	急性脳炎	病原体不明	不明	国内	中央
170	10.17	男	0~4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型未実施	不明／あり(3回)	国内	中央
171	10.18	男	10代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
172	10.19	男	30代	梅毒	無症状病原保有者	不明	不明	中央
173	10.21	女	40代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型19A	不明／無	国内	北須磨
174	10.22	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	不明	中央
175	10.17	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	兵庫
176	10.18	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	長田
177	10.25	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
178	10.11	男	30代	後天性免疫不全症候群	急性レトロウイルス感染症	異性間性的接触	国内	中央
179	10.28	女	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
180	10.25	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
181	10.29	男	30代	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	飛沫・飛沫核感染(家族からの感染)	国内	垂水
182	10.28	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
183	10.27	男	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	兵庫
184	10.28	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	兵庫
185	10.31	男	50代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	国内	兵庫
186	11.1	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
187	11.4	男	0~4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型15B/15C	不明／あり(4回)	国内	長田
188	11.8	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
189	11.8	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
190	11.18	女	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型3	不明／無	国内	垂水
191	11.18	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
192	11.12	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	兵庫
193	11.18	男	90代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型23A	不明/不明	国内	中央
194	11.18	男	0~4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型未実施	不明／あり(4回)	国内	西
195	11.24	男	40代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F/22A	飛沫感染(家族が同症状)／無	国内	中央
196	11.15	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国外(インドネシア)	中央
197	11.28	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
198	12.1	女	60代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型f型	不明/不明	国内	北須磨
199	12.2	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	長田
200	11.7	男	60代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter kobei、 KPC-2、CTX-M-9型β-ラクタマーゼ検出	ICUの排水口等の環境伝播と手指汚染からの接触伝播	国内	中央
201	12.3	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型23A	接触感染疑い／あり(1回)	国内	中央
202	12.7	女	10代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
203	12.12	女	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	北神
204	11.26	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
205	12.13	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
206	12.16	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	不明	中央
207	12.19	女	20代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
208	12.20	女	40代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	不明	中央
209	12.21	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	東灘
210	12.23	男	20代	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	同性間性的接触	国内	北須磨
211	12.23	男	20代	梅毒	無症状病原保有者	同性間性的接触	国内	北須磨
212	12.19	男	40代	梅毒	無症状病原保有者	異性間性的接触	国内	中央
213	12.26	男	40代	梅毒	無症状病原保有者	性的接触(異性間か同性間かは不明)	不明	中央
214	12.26	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北神
215	12.20	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	東灘
216	12.27	女	80代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Escherichia coli、 クラスAβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法によりCTX-M-9型β-ラクタマーゼ検出	不明	国内	中央
217	12.27	男	20代	ウイルス性肝炎	B型(遺伝子型:A型)	異性間性的接触	国内	北須磨
218	12.26	女	90代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Enterobacter cloacae complex、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	医療器具関連感染(尿路カテーテル)	国内	中央
219	12.30	女	60代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型未実施	不明／無	国内	灘
220	1.1	男	60代	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	Escherichia coli、 KPC型β-ラクタマーゼ産生	以前からの保菌(尿:詳細不明)、院内感染	国内	中央

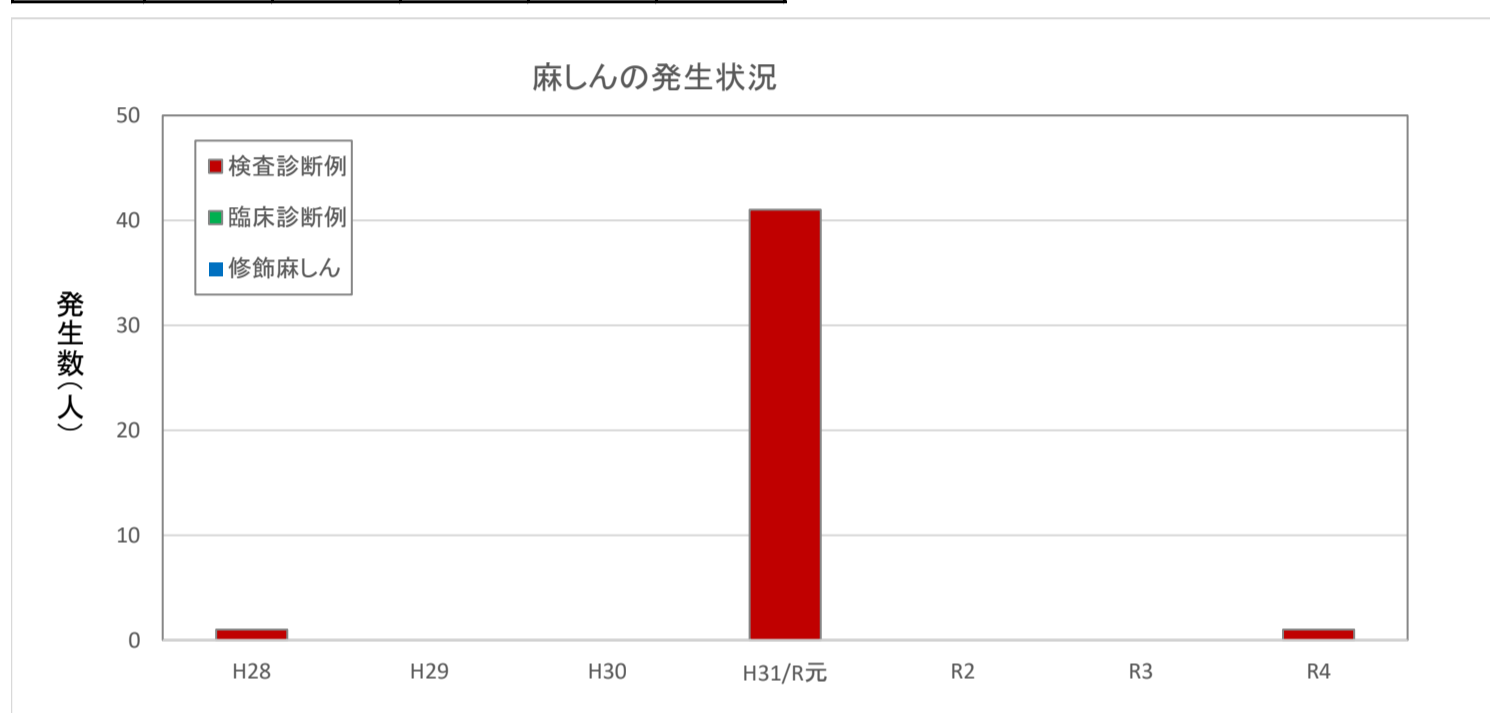
表6-2 五類（全数把握）感染症発生状況（麻しん・風しん）

令和4年第1週(1/3-9)～第52週(12/26-R5/1/1) 診断分

番号	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病名	病型	診断方法(検査方法)	症状	推定感染原因
1	女	50代	2021/12/29	2022/1/4	2022/1/7	麻しん	検査診断例	血清IgM抗体の検出	発熱、咳、結膜充血、発疹	不明

〔麻しん〕

	届出数	検査診断例	臨床診断例	修飾麻しん	取り下げ
H28	20	1	0	0	19
H29	13	0	0	0	13
H30	18	0	0	0	18
H31/R元	116	41	0	0	75
R2	5	0	0	0	5
R3	0	0	0	0	0
R4	3	1	0	0	2



〔風しん〕

	届出数	検査診断例	臨床診断例
H28	4	4	0
H29	1	1	0
H30	9	8	1
H31/R元	13	13	0
R2	3	3	0
R3	0	0	0
R4	0	0	0

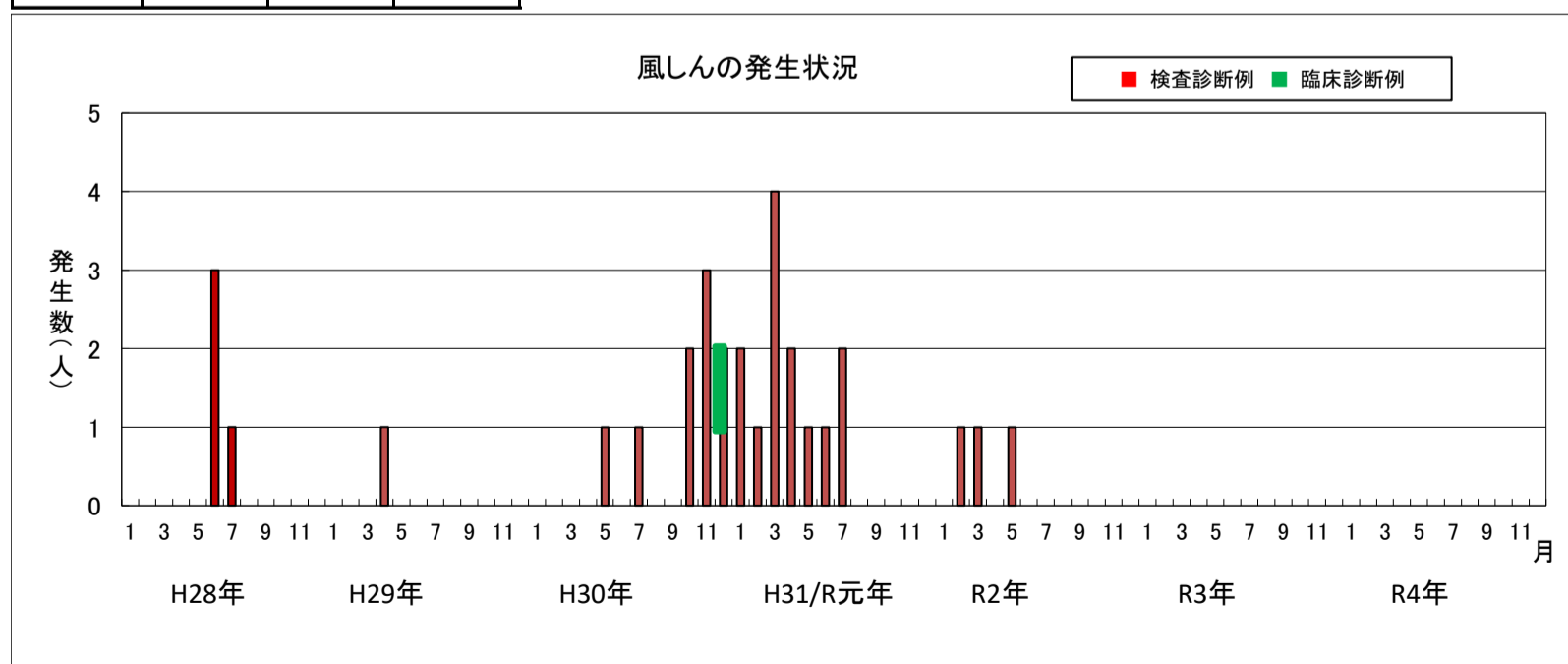
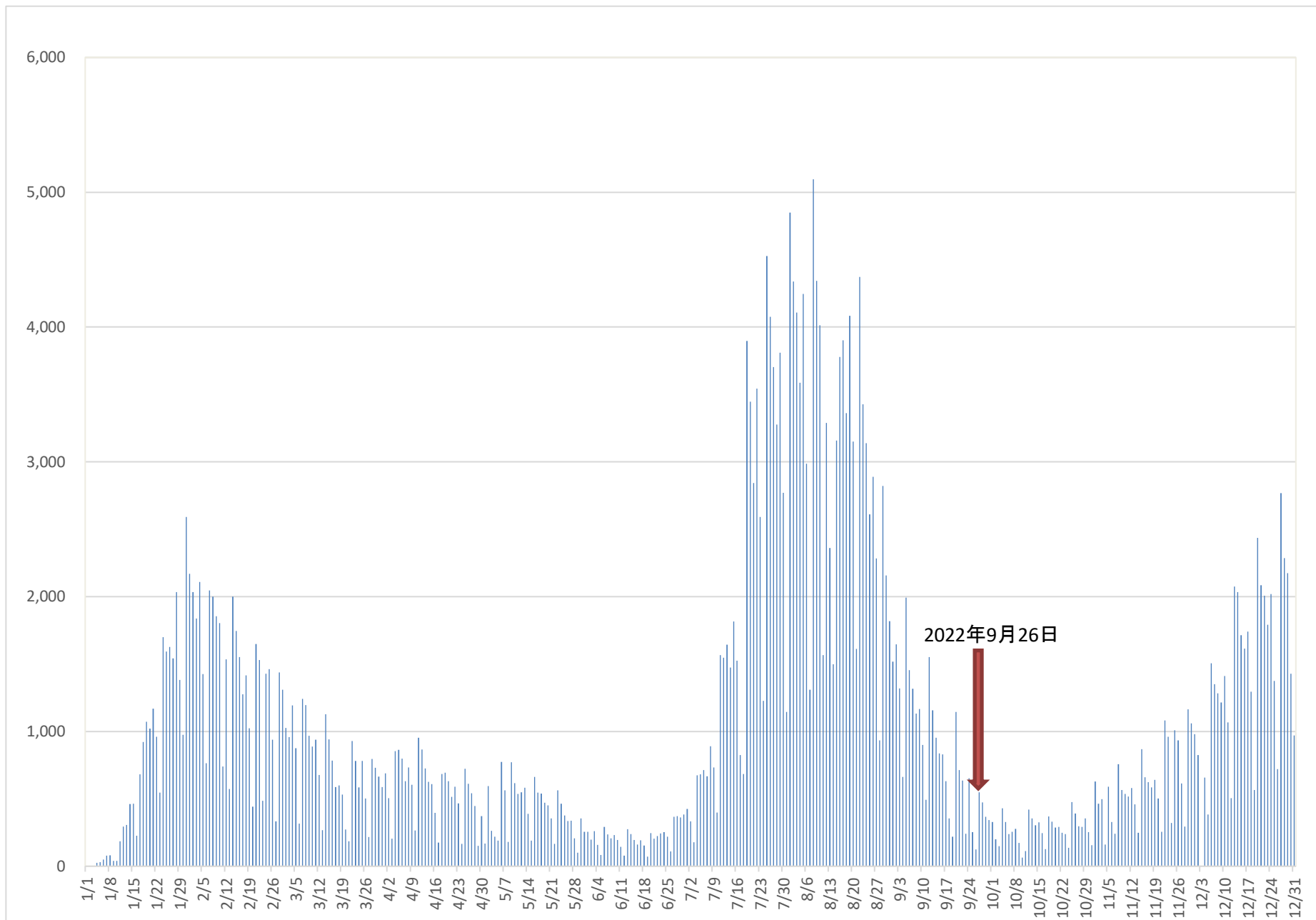


表7 新型コロナウイルス感染症 発生状況(神戸市 令和4年)

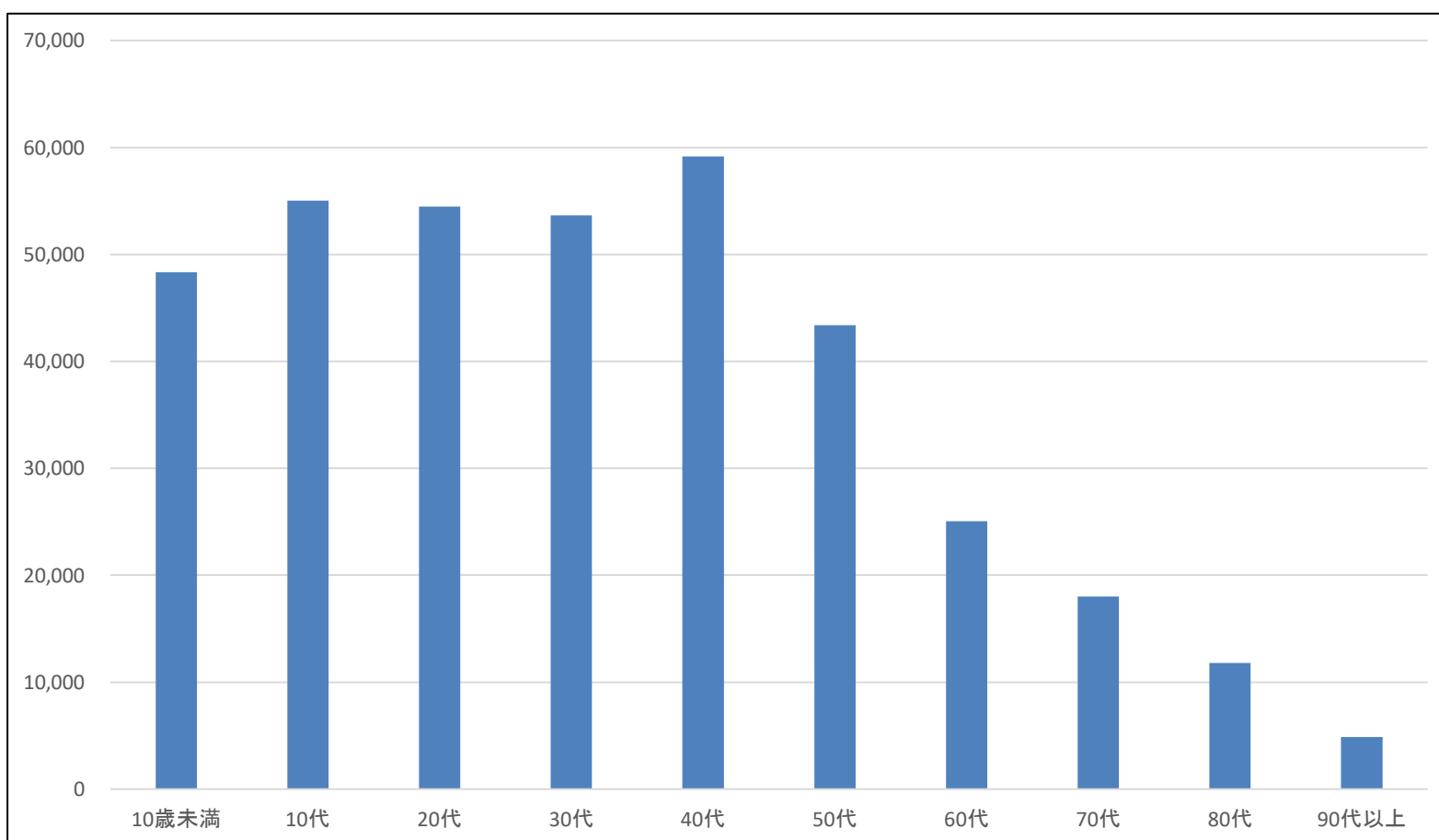
月別発生状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和4年	22,107	39,610	23,453	17,091	12,771	6,612	57,639	97,091	25,626	8,461	18,158	45,162	373,781



年齢別発生状況

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	計
令和4年	48,346	55,045	54,492	53,641	59,140	43,391	25,046	18,027	11,783	4,870	373,781



※ 2022年9月26日以降は、発生届の対象者を、65歳以上の者、入院を要する者、重症化リスクがあり、新型コロナ治療薬や酸素投与が必要と医師が判断する者、妊婦の4類型に限定されることとなった。

表8 神戸市感染症発生動向調査年報 令和4年（第1週～52週）

神戸市感染症発生動向調査週報

作成： 神戸市感染症情報センター

令和4年1月2日(第1週) ～ 令和4年12月31日(第52週)

インフルエンザ											設置定点数 48ヶ所																			
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ	18	18	14	4	20	33	23	27	52	209	2	5	13	10	12	12	10	17	6	12	5	40	28	13	12	8	1	2	1	

小児科											設置定点数 31ヶ所													
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	205	8	184	4	172	3	131	179	100	986	63	124	304	242	144	64	24	10	5		2	2		2
咽頭結膜熱	17	2	1	1	60	22	16	24	5	148	3	12	57	24	22	9	4	5	2	2	2	2		4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	4	75		419	10	14	21	19	568	2	12	74	95	70	79	69	39	31	23	15	51	4	4
感染性胃腸炎	458	251	378	199	1,969	435	1,042	1,025	635	6,392	87	353	1,105	894	760	657	512	388	248	198	166	569	118	337
水痘	10	6	6	2	24	6	12	22	7	95		7	11	3	4	7	11	7	10	4	5	26		
手足口病	102	24	87	24	193	42	143	114	45	774	8	50	279	209	99	67	29	14	7	3	2	2	1	4
伝染性紅斑	3		3		4	3	1	1	2	17		1	5	1	2	2	1	1		2	1	1		
突発性発しん	42	11	32	8	61	21	36	43	76	330	5	73	177	44	9	15	5	2						
ヘルパンギーナ	12	6	8		18	11	6	20	23	104		6	28	23	13	13	8	2	1		4	5		1
流行性耳下腺炎	3	2	7	5	11	2	3	4	8	45			1	1	3	3	5	7	5	9	2	8		1

眼科											設置定点数 10ヶ所																		
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～
急性出血性結膜炎									2	2												1				1			
流行性角結膜炎	32		1	1	7	12		1	7	61			2	2		1							3	8	12	13	9	7	4

表9 インフルエンザ・小児科・眼科定点(週報)患者報告数 平成29年～令和4年

	4年	3年	2年	31年/元年	30年
インフルエンザ	209	7	5,275	13,177	15,313
RSウイルス感染症	986	2,211	100	1,138	744
咽頭結膜熱	148	221	171	535	500
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	568	564	761	1,663	2,108
感染性胃腸炎	6,392	6,219	3,688	7,673	7,755
水痘	95	137	231	371	544
手足口病	774	1,153	119	3,340	777
伝染性紅斑	17	29	148	1,006	132
突発性発しん	330	436	486	436	495
百日咳※					
ヘルパンギーナ	104	398	110	572	600
流行性耳下腺炎	45	68	56	74	168
合計	9,668	11,443	11,145	29,985	29,136
急性出血性結膜炎	2	1	6	8	12
流行性角結膜炎	61	60	42	278	256
合計	63	61	48	286	268

※ 全数把握の対象疾患に変更

表10 基幹定点(週報)患者報告数 平成29年～令和4年

	4年	3年	2年	31年/元年	30年
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	1	0	6	12	12
無菌性髄膜炎	3	1	7	43	7
マイコプラズマ肺炎	0	0	18	30	10
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	1	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0	2	40	20
合計	5	1	33	126	49

表11 基幹定点(月報)患者報告数 平成29年～令和4年

	4年	3年	2年	31年/元年	30年
メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	137	131	92	128	119
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	1	1	4	8
薬剤耐性緑膿菌感染症	6	3	7	1	3
合計	146	135	100	133	130

表12-1 性感染症(STD)定点患者報告数 平成29年～令和4年

	4年	3年	2年	31年/元年	30年
性器クラミジア感染症	363	305	306	346	325
性器ヘルペスウイルス感染症	77	100	131	155	168
尖圭コンジローマ	56	56	53	78	51
淋菌感染症	120	90	102	90	104
合計	616	551	592	669	648

表12-2 性感染症（STD）定点患者報告数

令和4年の疾患別患者報告数

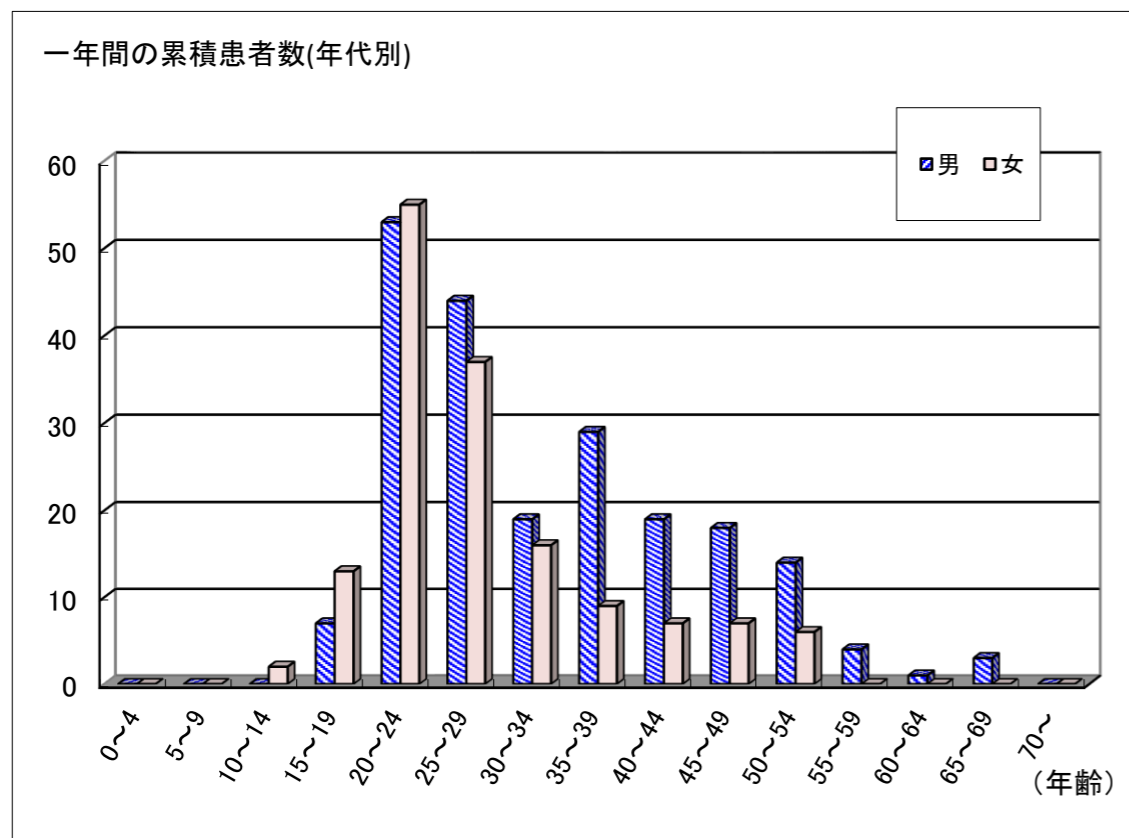
神戸市感染症情報センター

総設置定点数 12ヶ所

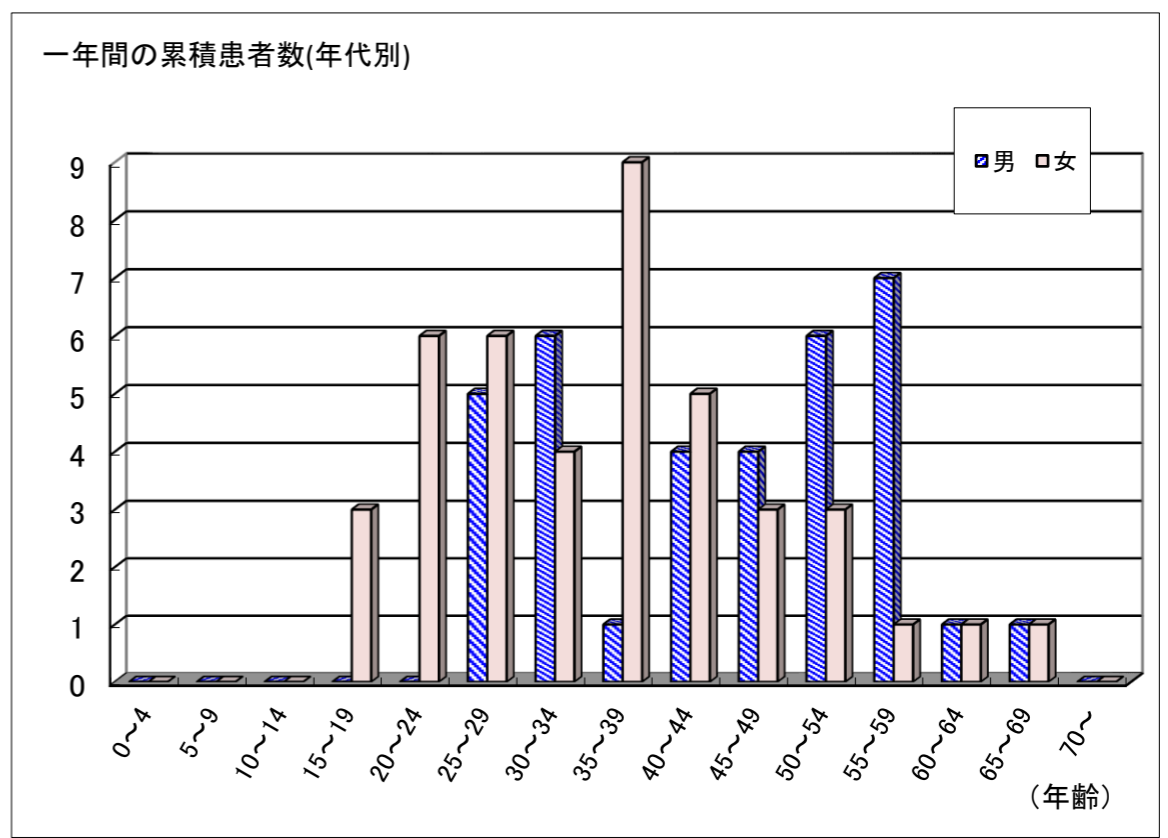
STD定点情報（令和4年患者）		患者年齢層															
病名	性	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~	合計
性器クラミジア感染症	男				7	53	44	19	29	19	18	14	4	1	3		211
	女			2	13	55	37	16	9	7	7	6					152
性器ヘルペスウイルス感染症	男						5	6	1	4	4	6	7	1	1		35
	女				3	6	6	4	9	5	3	3	1	1	1		42
尖圭コンジローマ	男					5	8	9	6	1	2	3	3	2	1	2	42
	女				2	8		1	2							1	14
淋菌感染症	男					23	21	13	6	12	7	15	1	1	2		101
	女				5	6	3	1	1	1			2				19

感染症ごとの年齢別累積患者報告数（令和4年1月～令和4年12月）

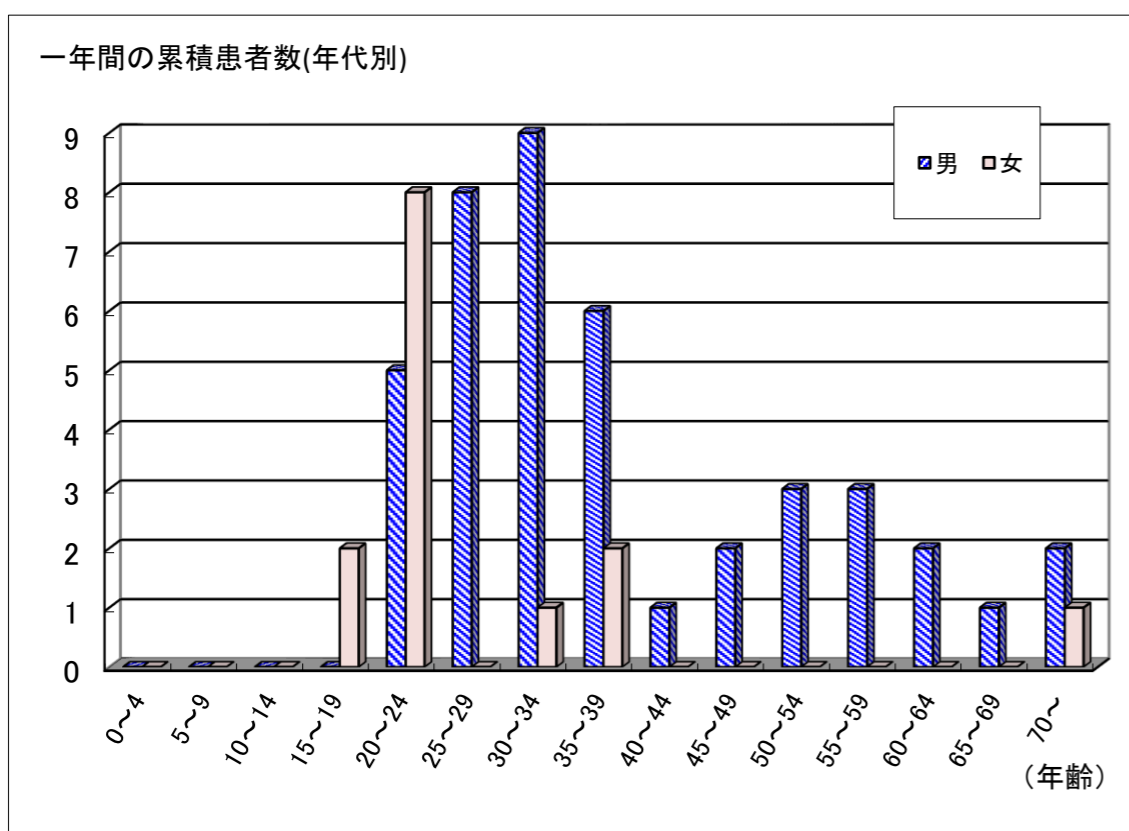
1. 性器クラミジア感染症



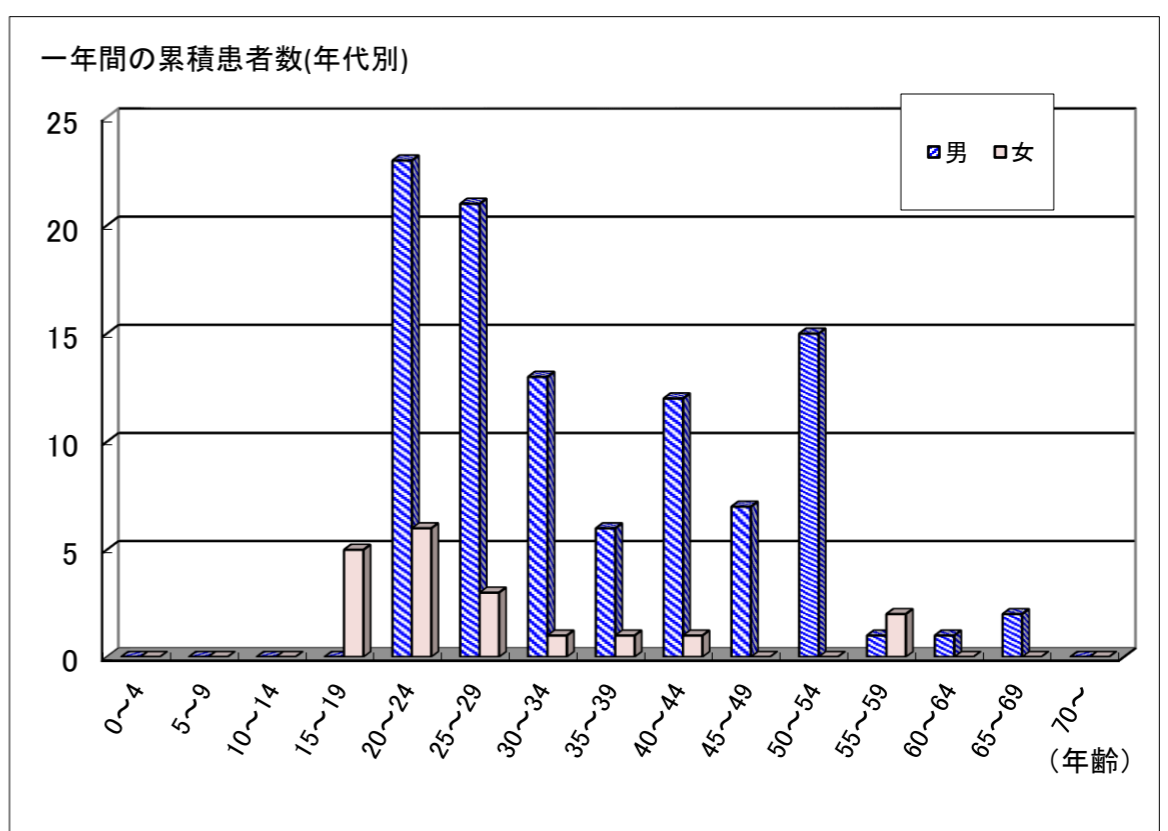
2. 性器ヘルペスウイルス感染症



3. 尖圭コンジローマ



4. 淋菌感染症



病原体検出状況報告(病院検査室定点) 平成6年～令和4年

表13 病院検査室定点活動状況

平成6～令和4年

年	設置定点数	総報告数	報告数/月	報告数/定点	報告率
平成6	14	125	10.4	8.9	74.4%
平成7	14	106	8.8	7.6	63.1%
平成8	14	101	8.4	7.2	60.1%
平成9	14	99	8.3	7.1	58.9%
平成10	14	82	6.8	5.9	48.8%
平成11	14	97	8.1	6.9	57.7%
平成12	14	106	8.8	7.6	63.1%
平成13	13	119	9.9	9.2	76.3%
平成14	13	120	10.0	9.2	76.9%
平成15	12	89	7.4	7.4	61.8%
平成16	13	124	10.3	9.5	79.5%
平成17	13	119	9.9	9.2	76.3%
平成18	13	150	12.5	11.5	96.2%
平成19	13	155	12.9	11.9	99.4%
平成20	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成21	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成22	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成23	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成24	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成25	13	155	12.9	11.9	99.4%
平成26	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成27	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成28	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成29	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成30	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成31/令和元	13(1月～3月) 14(4月～12月)	39(1月～3月) 126(4月～12月)	13.0(1月～3月) 14.0(4月～12月)	3.0(1月～3月) 9.0(4月～12月)	100.0%
令和2	14	167	13.9	11.9	99.4%
令和3	14	168	14.0	12.0	100.0%
令和4	14(1月～7月) 13(8月～12月)	98(1月～7月) 65(8月～12月)	14.0(1月～7月) 13.0(8月～12月)	7.0(1月～7月) 5.0(8月～12月)	100.0%

2022年(令和4年)病原体検出状況報告(病院検査室定点)(表14~25)

表14 便(細菌)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
エロモナス・ヒドロフィラ	1	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	6
エロモナス・ソブリア	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
エロモナス・ヒドロフィラ/ソブリア	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	5
カンピロバクター・ジェジュニ	36	17	23	42	36	32	22	7	12	15	9	12	263
カンピロバクター・コリ	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	0	5
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	0	1	0	4	3	2	2	1	1	2	3	1	20
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	2	1	3	0	1	1	0	1	9
プレジオモナス・シゲロイデス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
サルモネラ属菌 O4群	2	0	1	0	6	2	0	8	3	5	0	1	28
サルモネラ属菌 O7群	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0	5
サルモネラ属菌 O8群	0	0	0	0	1	1	3	1	4	2	2	1	15
サルモネラ属菌 O9群	1	0	1	1	2	0	0	0	1	1	0	1	8
サルモネラ属菌 その他	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
サルモネラ属菌 群不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
黄色ブドウ球菌	3	5	6	1	6	10	7	6	4	5	4	8	65
エルシニア・エンテロコリチカ	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
エルシニア・シュードツベルクロシス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
陽性数	44	23	32	51	58	54	43	26	28	33	21	26	439
検査件数	401	305	344	356	375	424	403	322	363	348	276	301	4218

表15 便(ウイルス)

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アデノウイルス40/41	0	3	1	1	9	9	7	1	3	0	0	6	40
ノロウイルス群不明	22	6	1	2	2	1	1	0	2	0	0	4	41
ロタウイルス	5	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	10
陽性数	27	9	3	3	12	12	8	1	6	0	0	10	91
検査件数	166	110	96	113	119	131	101	94	101	105	79	112	1327

表16 便(原虫)

原虫名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
赤痢アメーバ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ランブル鞭毛虫	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
陽性数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
検査件数	3	0	1	2	2	7	5	4	3	2	8	8	45

表17 穿刺液(胸水, 腹水, 関節液など)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	31	17	29	28	31	36	20	28	22	23	22	17	304
大腸菌	22	17	31	31	20	22	24	27	30	22	26	20	292
エンテロバクター属菌	5	2	6	13	8	6	5	12	11	11	4	10	93
肺炎桿菌	12	12	11	15	10	11	11	18	12	13	15	6	146
クレブシエラ・アエロゲネス	0	1	1	3	4	2	4	1	3	2	2	1	24
抗酸菌	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	4
緑膿菌	10	7	3	13	5	7	6	13	4	10	4	8	90
黄色ブドウ球菌	15	9	19	7	8	9	9	11	10	10	8	8	123
コアグラールゼ陰性ブドウ球菌	3	6	6	2	5	4	4	6	5	8	7	12	68
肺炎レンサ球菌	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
陽性数	98	72	106	112	91	97	85	116	99	99	88	82	1145
検査件数	465	406	446	383	446	449	399	479	374	374	403	459	5083

表18 髄液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
インフルエンザ菌	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
リステリア・モノサイトゲネス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
黄色ブドウ球菌	0	1	0	1	1	0	1	0	3	2	0	2	11
B群レンサ球菌	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
肺炎レンサ球菌	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
クリプトコックス・ネオフォルマンس	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
陽性数	0	3	0	1	2	3	1	0	5	2	1	3	21
検査件数	134	144	132	126	134	143	136	137	146	129	127	147	1635

表19 咽頭および鼻咽頭からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ菌	3	2	3	5	3	8	5	6	6	12	10	7	70
A群レンサ球菌	3	0	0	0	2	1	0	2	0	2	0	4	14
肺炎レンサ球菌	2	0	3	6	4	12	10	8	12	15	14	8	94
陽性数	8	2	6	11	9	21	15	16	18	29	24	19	178
検査件数	633	442	573	479	529	631	647	697	620	659	592	632	7134

表20 尿

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アシネトバクター属菌	3	3	0	3	1	7	7	6	5	4	8	2	49
カンジダ・アルビカンス	70	80	69	42	52	61	67	66	64	73	78	62	784
エンテロバクター属菌	28	25	32	23	29	32	42	46	36	35	34	30	392
エンテロコッカス属菌	326	271	282	236	267	280	276	275	265	258	279	305	3320
大腸菌	520	496	554	508	588	564	624	605	630	584	560	634	6867
肺炎桿菌	148	122	111	93	119	103	137	145	173	155	160	150	1616
クレブシエラ・アエロゲネス	17	10	17	13	14	8	11	14	21	21	10	17	173
緑膿菌	102	68	85	98	95	106	97	99	85	111	115	104	1165
黄色ブドウ球菌	82	58	67	49	65	57	80	81	64	77	61	77	818
コアグラールゼ陰性ブドウ球菌	250	164	206	238	216	218	254	226	221	195	197	188	2573
陽性数	1546	1297	1423	1303	1446	1436	1598	1563	1564	1513	1502	1569	17760
検査件数	2737	2337	2685	2381	2767	2527	2897	3046	2854	2782	2829	3029	32871

表21 血液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	38	26	17	39	31	30	31	27	25	18	29	22	333
大腸菌	135	103	125	174	173	135	144	163	180	144	128	151	1755
エンテロバクター属菌	8	7	5	3	18	6	11	13	13	12	3	6	105
インフルエンザ菌	1	0	0	1	2	0	0	0	1	2	1	2	10
肺炎桿菌	36	38	41	39	40	34	50	47	51	66	45	45	532
クレブシエラ・アエロゲネス	8	2	2	5	5	2	7	12	10	3	1	8	65
リステリア・モノサイトゲネス	0	1	0	0	1	1	0	2	0	0	2	0	7
緑膿菌	10	10	14	14	20	16	12	23	20	15	11	14	179
サルモネラ属菌	1	1	0	1	0	0	2	2	2	2	0	1	12
黄色ブドウ球菌	89	81	90	57	70	58	72	61	87	47	77	95	884
コアグラールゼ陰性ブドウ球菌	113	102	127	88	112	82	156	171	146	111	109	92	1409
B群レンサ球菌	14	0	10	7	5	8	4	11	6	9	5	4	83
肺炎レンサ球菌	0	2	3	1	0	3	0	1	3	1	3	2	19
クリプトコックス・ネオフォルマンス	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
陽性数	453	374	434	429	477	376	489	533	544	430	414	442	5395
検査件数	6515	5670	6263	5765	6417	5877	6984	7126	6768	6697	6764	7203	78049

表22 喀痰、気管吸引液および下気道からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	30	26	28	19	29	31	27	24	20	20	30	26	310
インフルエンザ菌	31	21	31	16	31	28	23	20	18	30	42	36	327
肺炎桿菌	100	70	82	88	83	69	112	114	130	113	99	107	1167
レジオネラ・ニューモフィラ	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	5
結核菌	46	43	26	22	25	33	40	27	32	31	33	23	381
肺炎マイコプラズマ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
緑膿菌	134	124	118	86	123	105	110	130	140	119	138	98	1425
黄色ブドウ球菌	264	253	258	225	222	230	211	285	250	247	289	280	3014
A群レンサ球菌	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	5
B群レンサ球菌	22	22	14	16	16	15	18	20	10	21	18	38	230
肺炎レンサ球菌	14	8	18	13	13	18	14	18	15	27	26	17	201
陽性数	644	567	575	486	542	531	557	639	615	608	677	625	7066
検査件数	2287	2051	2309	2017	2107	2212	2180	2412	2137	2178	2415	2472	26777

表23 尿道または子宮頸管擦過(分泌物)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
カンジダ・アルビカンス	50	39	42	34	48	39	40	48	41	40	38	34	493
クラミジア・トラコマーティス	2	6	2	5	2	3	4	4	3	3	6	3	43
淋菌	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
B群レンサ球菌	56	59	71	56	57	57	45	62	67	53	58	66	707
腔トリコモナス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
陽性数	108	105	115	95	107	99	89	115	111	97	103	103	1247
検査件数	569	570	676	607	600	636	561	585	619	549	628	610	7210

表24 検出された黄色ブドウ球菌の内訳

	菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大便	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	2	1	4	1	4	8	3	5	4	4	1	6	43
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	1	4	2	0	2	2	4	1	0	1	3	2	22
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	5	6	1	6	10	7	6	4	5	4	8	65
穿刺	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	8	4	7	5	1	1	4	2	1	4	0	4	41
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	7	5	12	2	7	8	5	9	9	6	8	4	82
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	15	9	19	7	8	9	9	11	10	10	8	8	123
髄液	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	0	1	0	1	1	0	0	0	3	2	0	2	10
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	1	1	0	1	0	3	2	0	2	11
尿	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	31	21	26	21	23	27	37	39	31	36	21	34	347
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	51	37	41	28	42	30	43	42	33	41	40	39	467
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	82	58	67	49	65	57	80	81	64	77	61	73	814
血液	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	37	31	30	24	21	17	27	21	25	12	38	37	320
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	52	50	60	33	49	41	45	40	62	35	39	58	564
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	89	81	90	57	70	58	72	61	87	47	77	95	884
喀痰	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	125	127	129	109	133	120	120	148	123	125	146	144	1549
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	139	126	129	116	89	110	91	137	127	122	143	136	1465
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	264	253	258	225	222	230	211	285	250	247	289	280	3014
合計	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	203	184	196	160	182	173	192	215	184	181	206	225	2301
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	250	223	244	180	190	191	188	229	234	207	233	241	2610
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	453	407	440	340	372	364	380	444	418	388	439	466	4911

表25 腸管出血性大腸菌の検出

No	検体採取日	血清型	VT型	症状
1	2022年5月3日	O26	VT1	下痢、血便
2	2022年5月27日	O157	VT1/VT2	下痢、血便
3	2022年6月24日	O157	VT2	発熱、血便
4	2022年7月6日	O26	VT1	腹痛、血便
5	2022年7月11日	O157	VT2	腹痛、嘔吐、下痢、血便、HUS
6	2022年7月28日	O157	VT2	下痢、血便
7	2022年9月24日	O157	VT2	下痢、粘血便
8	2022年10月16日	O157	VT2	腹痛、血便
9	2022年12月12日	O157	VT2	下痢、血便、HUS

2022年(令和4年)病原体検出状況報告(健康科学研究所実施分)(表26～30)

表26 2022年 STD(定点)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
淋菌	耐性菌 (PCG)													0
	低感受性菌 (CFIX)													0
	陽性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	検査検体数	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
クラミジア・トラコマチス	陽性数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	検査検体数	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3

表27 食中毒以外の細菌検査

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ダニ媒介性	紅斑熱群リケッチア				2		3				2			7
	つつがむし病リケッチア											1		1
その他臨床	レジオネラ属菌		1		1			2	1	1		1		7
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2		1	1	2		1	1	6			1	15
	侵襲性肺炎球菌	1							1	1	3	4	1	11
	侵襲性インフルエンザ菌	1			1	1					1		1	5
	劇症型溶血性レンサ球菌			1	2									3

注) 数字は陽性数を示す

表28 ウイルス検出状況

(新型コロナウイルスは別掲)

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
コクサッキーウイルスA群6型									1				1
コクサッキーウイルスA群16型					1		1		1				3
ライノウイルス			1						1				2
パレコウイルス4型									1				1
A型インフルエンザウイルス (H3亜型)							1					1	2
ヒトメタニューモウイルス											2		2
アデノウイルス1型					1								1
水痘帯状疱疹ウイルス								2					2
EBウイルス					1	1							2
デングウイルス1型					1								1
陽性検体数	0	0	1	0	4	1	2	2	4	0	2	1	17
検体数	3	0	5	3	19	3	6	6	10	5	9	1	70

表29 新型コロナウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
SARS-CoV-2	426	216	146	41	15	20	93	70	14	11	7	9	1,068
検体数	1,903	687	454	258	110	123	240	165	109	30	18	56	4,153

表30 疾患別ウイルス検出件数

(集団嘔吐下痢症および、インフルエンザ、新型コロナウイルスをのぞく)

診断名	検出ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
手足口病	コクサッキーウイルスA群6型									1				1
	コクサッキーウイルスA群16型					1		1		1				3
	ライノウイルス									1				1
感染性胃腸炎	ノロウイルス													0
無菌性髄膜炎	パレコウイルス4型									1				1
急性脳炎	ライノウイルス			1										1
デング熱	デングウイルス1型					1								1
肺炎	ヒトメタニューモウイルス											2		2
不明熱	EBウイルス					1	1							2
肝機能低下	アデノウイルス1型					1								1
合計検出数		0	0	1	0	4	1	1	0	4	0	2	0	13

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

<報告> 病原体検出状況(病院検査室定点) 2021 年(令和 3 年)

神戸市では感染症発生動向調査事業実施要綱に定められている病原体定点(健康科学研究所で検査を実施)に加え、より多くの情報を収集・分析するため、独自に「病院検査室定点」を設置している。2021 年は 13 病院、1 検査機関を設置している。

毎月「病院検査室定点」の検査室で検査した検体について、検体種別ごとの検査件数と検出した病原体に関する情報を報告いただいている。

今号では、2021 年(報告数 168 件)の病原体検出状況について報告する。

2021 年も昨年と同様、新型コロナウイルスに対する社会の感染予防対策及び個人の感染予防行動が他の感染症への予防にもつながっており、検出状況に大きく影響を与えていると考えられる。

今回の報告では新型コロナウイルスの詳細に関しては省略する。

【糞便】(図 1、表 1~4)

4,722 件中 573 件から細菌性の病原体が検出され(検出率 12.1%)、その内訳はカンピロバクター属菌(72.1%)、黄色ブドウ球菌(12.4%)、サルモネラ属菌(12.6%)、下痢原性大腸菌(1.2%)で、それぞれの検出率は 2020 年と比較して大きく変化は見られない。カンピロバクター属菌の内、93.0%はカンピロバクター・ジェジュニであった。サルモネラ属菌の血清型は O4 群が多く、続いて O7 群、O9 群であった。下痢

原性大腸菌の検出率は 2018 年(11.1%)、2019 年(2.5%)、2020 年(1.5%)と減少してきている。下痢原性大腸菌のすべてを腸管出血性大腸菌が占めておりその検出数は 7 件で、報告数は 2019 年(17 件)、2020 年(11 件)と減少している。血清型は O157 が 5 件(毒素型:VT1:1、VT2:3、VT1/VT2:1)、O111 が 1 件(毒素型:VT2)、O26 が 1 件(毒素型:VT1)であった。(3 頁表 1 参照)。

慢性腎不全の患者から、リステリア・モノサイトゲネスが 1 件検出(血液からも検出)された。

ウイルスは、832 件中 58 件から検出され(検出率 7.0%)、その内訳はノロウイルス(87.9%)、アデノウイルス 40/41(12.1%)であった。検出率は 2017 年以降 10 数%で推移していたが、2020 年以降半減した。検出内訳は昨年と比較して大きな変化はなかった。

原虫は赤痢アメーバが 1 件検出された。

【穿刺液】(図 2、表 5)

5,192 件中 1,202 件から細菌性の病原体が検出され(検出率 23.2%)、その内訳は大腸菌(25.8%)、嫌気性菌(24.3%)、黄色ブドウ球菌(12.2%)、肺炎桿菌(10.5%)であった。

【髄液】(表 6)

1,671 件中 21 件から病原体が検出され(検出率 1.3%)、その内訳は黄色ブドウ球菌(10 件)、肺炎レンサ球菌(3 件)、大腸菌(2 件)、B 群レンサ球菌(2 件)であった。肝膿瘍、敗血症、髄膜炎症状の患者から肺炎桿菌が検出(1 件)された。また、真菌であるクリプトコックス・ネオ

フォルマンズが悪性リンパ腫の基礎疾患を持つ患者から検出(1件、血液からも検出)された。クリプトコックス・ネオフォルマンズは主に、肺や皮膚から感染して病巣を形成し、肺クリプトコックス症を引き起こすことが多いが、腎疾患、膠原病、悪性腫瘍、糖尿病やステロイド投与などにより、中枢神経系に播種、脳髄膜炎を起こすことがある¹⁾。さらに、2名(80歳代、50歳代)の患者から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。水痘帯状疱疹ウイルスは成人の無菌性髄膜炎の原因ウイルスとなる。

【咽頭及び鼻咽頭】(図3、表7)

9,458件中190件から細菌性の病原体が検出され(検出率2.0%)、2017年当時10%前後であった検出率が2020年(2.9%)以降大きく減少している。その内訳は肺炎レンサ球菌(52.6%)、インフルエンザ菌(35.8%)、A群レンサ球菌(11.6%)であった。この数年インフルエンザ菌の検出の割合が一番高かったが、2021年は肺炎レンサ球菌の検出が半数を占めた

細菌性の病原体の検出率が大きく減少した原因として、新型コロナウイルスへの感染予防対策を講じることにより、同じ感染経路を持つ他の病原体の感染対策に効果があったと考えられる。

【尿】(図4、表8)

30,777件中16,867件から病原体が検出され(検出率54.8%)、その内訳は大腸菌(39.6%)、エンテロコッカス属菌(19.4%)、コアグラールゼ陰性ブドウ球菌(15.2%)であった。

【血液】(図5、表9)

75,664件中5,181件から病原体が検出され(検出率6.8%)、その内訳は大腸菌(34.1%)、コアグラールゼ陰性ブドウ球菌(25.7%)、黄色ブドウ球菌(13.6%)、肺炎桿菌(10.4%)であった。リステリア・モノサイトゲネスが9件検出され、2012年以降、毎年検出が続いている。リステリア・モノサイトゲネスは人畜共通感染症であるリステリア症の原因菌であり、食品媒介感染症として注目されている²⁾。また、【髄液】の項で記載したように真菌であるクリプトコックス・ネオフォルマンズの検出が1件あった。また、腎不

全患者より、ヘリコバクター・シネディが検出された。ヘリコバクター・シネディは腸管常在菌であるが、免疫不全状態の患者での菌血症の報告が多い。

【喀痰、気管吸引液および下気道からの材料】

(図6、表10)

26,781件中6,883件から細菌性の病原体が検出された(検出率25.7%)。その内訳は黄色ブドウ球菌(42.5%)、緑膿菌(21.5%)、肺炎桿菌(13.4%)で、2020年と同様の検出状況であった。レジオネラ・ニューモフィラが2月に1件、12月に2件検出された。

【尿道または子宮頸管擦過(分泌物)】

(図7、表11)

7,751件中1,524件から病原体が検出され(検出率19.7%)、その内訳はB群レンサ球菌(55.6%)、カンジダ・アルビカンス(40.4%)であった。この数年にわたってこれらの2菌種がそれぞれ半数を占めている。

【検出された黄色ブドウ球菌の内訳】(表12)

検出された黄色ブドウ球菌4,580件中、MRSAは2,069件(45.2%)で、2020年(47.9%)より検出割合は減少した。2010年に初めてMRSAの割合が70%を下回り、その後は、低下傾向である。検体別でのMRSAの占める割合は、大便(79.4%)、喀痰(47.5%)、尿(41.1%)、血液(38.3%)、穿刺(38.1%)、髄液(30.0%)であった。また、検出されたMRSA(2,069件)の検体内訳は喀痰1,389件(67.1%)、尿298件(14.4%)、血液269件(13.0%)であり、喀痰からの検出が半数以上を占めた

参考文献

1)IASR Vol. 36 p. 185-186: 2015年10月号

2)<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohana-shi/525-l-monocytogenes.html>

神戸市健康科学研究所

秋吉 京子

表 1 2021 年腸管出血性大腸菌の検出

No	検体採取日	血清型	VT 型	臨床症状
1	2021 年 1 月 7 日	O157	VT2	保菌
2	2021 年 7 月 26 日	O157	VT2	下痢、血便
3	2021 年 8 月 19 日	O157	VT1/VT2	記載なし
4	2021 年 8 月 25 日	O157	VT1	血便、腹痛、下痢
5	2021 年 8 月 13 日	O111	VT2	発熱、血便、HUS
6	2021 年 9 月 12 日	O26	VT1	血便、腹痛、下痢
7	2021 年 11 月 4 日	O157	VT2	発熱、腹痛、下痢、嘔吐

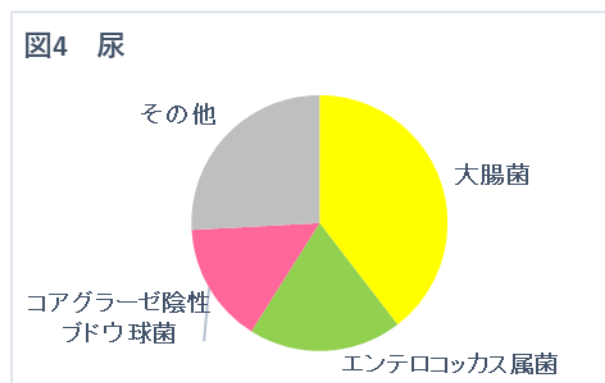
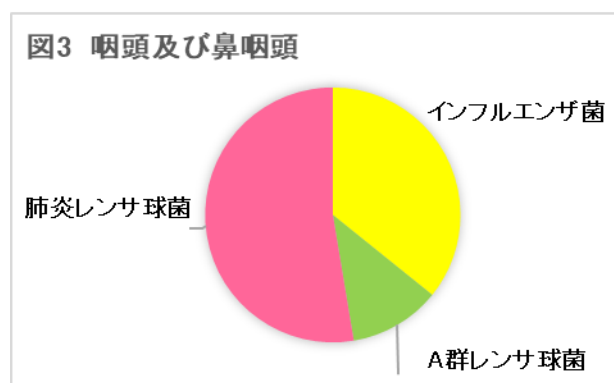
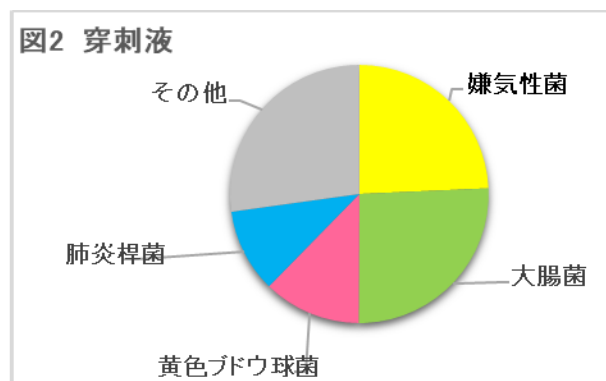
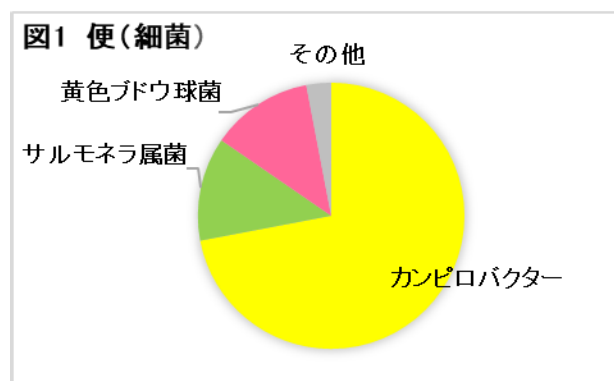


図5 血液

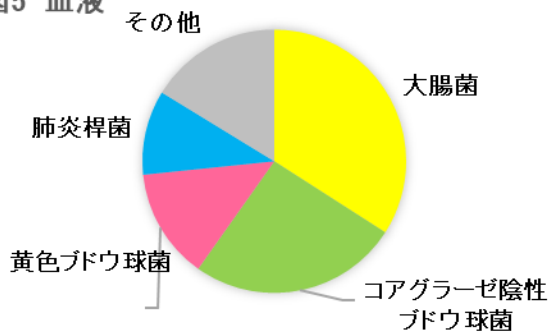


図6 下気道

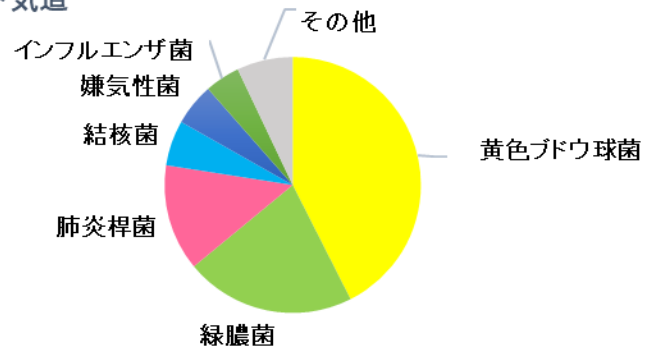
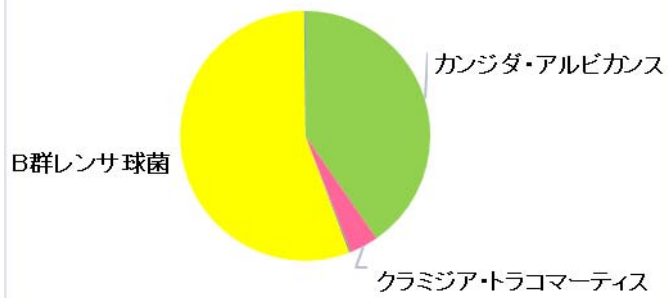


図7 尿道または子宮頸管擦過物



2021年(令和3年)病原体検出状況報告(病院検査室定点)(表2~12)

表2 便(細菌)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
エロモナス・ヒドロフィラ	0	2	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	7
エロモナス・ヒドロフィラ/ソブリア	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
カンピロバクター・ジェジュニ	26	23	38	29	19	28	35	24	26	18	55	63	384
カンピロバクター・コリ	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	2	6
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	0	2	4	2	1	1	5	0	0	2	4	2	23
ウェルシュ菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	0	0	1	3	1	0	1	0	7
サルモネラ属菌 O4群	3	2	1	3	4	1	4	9	2	5	1	1	36
サルモネラ属菌 O7群	7	0	0	2	0	4	1	0	3	0	0	0	17
サルモネラ属菌 O8群	0	1	0	0	0	1	2	1	0	1	1	1	8
サルモネラ属菌 O9群	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	2	3	10
サルモネラ属菌 O13群	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
サルモネラ属菌 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黄色ブドウ球菌	10	8	8	7	5	3	6	7	6	3	4	4	71
リステリア・モノサイトゲネス	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
陽性数	48	38	51	45	30	38	57	48	43	30	68	77	573
検査件数	391	328	370	348	324	359	436	415	455	374	429	493	4722

表3 便(ウイルス)

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アデノウイルス40/41	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	2	7
ノロウイルス群不明	1	0	5	7	6	5	2	1	0	1	7	16	51
陽性数	2	0	5	7	6	5	2	2	1	3	7	18	58
検査件数	72	33	78	72	55	76	61	53	32	65	81	154	832

表4 便(原虫)

原虫名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
赤痢アメーバ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
陽性数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
検査件数	5	4	4	13	7	1	5	3	4	1	2	8	57

表5 穿刺液(胸水、腹水、関節液など)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	34	18	31	15	16	40	21	17	23	16	37	24	292
大腸菌	22	28	32	11	19	27	31	22	31	30	29	28	310
エンテロバクター属菌	7	5	11	7	14	9	12	6	5	11	6	10	103
肺炎桿菌	14	11	10	6	4	13	9	13	9	14	12	11	126
クレブシエラ・アエロゲネス	2	5	1	6	3	3	4	3	17	5	2	3	54
抗酸菌	0	2	1	2	2	0	0	1	0	0	0	0	8
緑膿菌	4	2	7	4	3	4	4	7	7	15	4	3	64
黄色ブドウ球菌	8	11	6	10	11	13	14	6	16	20	16	16	147
コアグラージェ陰性ブドウ球菌	15	7	9	9	9	8	6	5	10	8	4	6	96
肺炎レンサ球菌	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
陽性数	107	89	108	70	81	117	101	80	118	119	111	101	1202
検査件数	447	426	442	408	380	488	430	384	454	409	452	472	5192

表6 髄液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大腸菌	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
黄色ブドウ球菌	2	0	0	0	2	0	1	1	1	2	1	0	10
B群レンサ球菌	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
肺炎レンサ球菌	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
肺炎桿菌	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
クリプトコックス・ネオフォルマンズ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
水痘帯状疱疹ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
陽性数	4	0	0	2	4	1	2	1	2	2	3	0	21
検査件数	128	103	149	136	116	135	168	97	157	160	175	147	1671

表7 咽頭および鼻咽頭からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ菌	3	1	3	2	16	8	14	7	1	4	3	6	68
A群レンサ球菌	7	0	2	1	2	2	2	0	1	5	0	0	22
肺炎レンサ球菌	1	3	3	5	18	23	23	4	4	6	6	4	100
陽性数	11	4	8	8	36	33	39	11	6	15	9	10	190
検査件数	1093	1219	1161	593	594	653	867	760	798	583	578	559	9458

表8 尿

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アシネトバクター属菌	8	2	1	4	4	2	5	3	5	3	3	6	46
カンジダ・アルビカンス	62	46	50	54	45	54	59	60	61	65	60	62	678
エンテロバクター属菌	28	20	22	21	24	21	34	34	25	31	30	21	311
エンテロコッカス属菌	271	242	304	253	250	260	298	275	250	255	329	277	3264
大腸菌	506	526	586	502	489	562	595	635	574	553	611	537	6676
肺炎桿菌	107	117	104	107	114	108	120	135	123	150	159	125	1469
クレブシエラ・アエロゲネス	9	13	8	10	13	13	13	18	17	14	19	19	166
緑膿菌	76	71	64	66	71	60	73	104	107	111	93	71	967
黄色ブドウ球菌	78	58	60	57	46	58	76	60	64	56	61	51	725
コアグララーゼ陰性ブドウ球菌	203	125	207	179	185	208	243	258	267	240	232	218	2565
陽性数	1348	1220	1406	1253	1241	1346	1516	1582	1493	1478	1597	1387	16867
検査件数	2498	2278	2485	2420	2364	2456	2740	2797	2608	2586	2795	2750	30777

表9 血液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	33	24	23	19	32	26	40	34	34	19	23	24	331
大腸菌	117	134	127	135	144	146	173	167	154	140	164	165	1766
エンテロバクター属菌	10	11	13	7	8	12	18	5	10	11	9	17	131
インフルエンザ菌	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
肺炎桿菌	48	44	36	36	43	24	53	58	39	58	49	50	538
クレブシエラ・アエロゲネス	7	6	5	2	4	5	4	10	0	4	4	5	56
リステリア・モノサイトゲネス	0	1	1	0	1	1	0	1	0	2	2	0	9
緑膿菌	8	14	17	9	22	10	11	16	26	17	15	8	173
サルモネラ属菌	2	1	0	0	0	1	3	2	10	3	1	0	23
黄色ブドウ球菌	64	67	68	46	58	53	67	61	69	58	45	47	703
コアグララーゼ陰性ブドウ球菌	114	83	107	94	155	107	129	122	110	113	77	121	1332
B群レンサ球菌	13	7	2	6	6	12	9	7	7	13	10	5	97
肺炎レンサ球菌	6	0	0	1	1	0	0	3	2	0	3	2	18
クリプトコックス・ネオフォルマンس	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
ヘリコバクター・シネディ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
陽性数	422	393	399	355	475	397	507	486	461	438	402	444	5181
検査件数	6180	5671	6300	6045	6143	6242	6882	6692	6304	6304	6311	6590	75664

表10 喀痰, 気管吸引液および下気道からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	56	31	40	48	34	13	25	29	21	26	25	18	366
インフルエンザ菌	38	25	36	27	31	15	16	30	28	17	16	26	305
肺炎桿菌	70	82	67	73	76	63	71	88	89	83	91	72	925
レジオネラ・ニューモフィラ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
結核菌	21	29	44	45	22	32	31	42	43	23	23	40	395
緑膿菌	111	87	119	106	89	122	129	160	145	135	128	146	1477
黄色ブドウ球菌	273	227	280	262	274	209	219	241	265	209	214	254	2927
A群レンサ球菌	0	1	3	0	1	1	1	1	1	1	2	1	13
B群レンサ球菌	20	21	26	19	23	17	13	27	14	10	15	25	230
肺炎レンサ球菌	22	13	28	18	24	19	19	25	20	17	24	13	242
陽性数	611	517	643	598	574	491	524	643	626	521	538	597	6883
検査件数	2101	1982	2325	2257	2115	2078	2286	2432	2397	2252	2231	2325	26781

表11 尿道または子宮頸管擦過(分泌)物

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
カンジダ・アルビカンス	59	39	64	45	42	55	61	52	53	46	57	42	615
クラミジア・トラコマーティス	4	8	5	5	3	2	4	6	7	4	4	4	56
淋菌	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	4
B群レンサ球菌	64	56	89	66	67	74	89	73	72	64	64	69	847
臍トリコモナス	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
陽性数	127	103	158	116	114	131	155	132	132	116	125	115	1524
検査件数	627	567	727	589	620	676	716	641	699	614	612	663	7751

表12 検出された黄色ブドウ球菌の内訳

	菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大便	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	7	5	6	6	3	3	4	7	5	2	3	3	54
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	3	0	2	1	2	0	2	0	1	1	1	1	14
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	10	5	8	7	5	3	6	7	6	3	4	4	68
穿刺	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	3	2	2	4	4	8	4	2	12	8	5	2	56
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	5	9	4	6	7	5	10	4	4	12	11	14	91
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	8	11	6	10	11	13	14	6	16	20	16	16	147
髄液	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2	0	0	7
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	2	0	0	0	2	0	1	1	1	2	1	0	10
尿	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	24	21	24	20	23	27	41	24	25	20	28	21	298
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	54	37	36	37	23	31	35	36	39	36	33	30	427
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	78	58	60	57	46	58	76	60	64	56	61	51	725
血液	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	27	20	24	18	21	20	29	30	37	8	19	16	269
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	37	47	44	28	37	33	38	31	32	50	26	31	434
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	64	67	68	46	58	53	67	61	69	58	45	47	703
喀痰	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	145	125	147	113	112	90	108	104	122	102	105	116	1389
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	128	102	133	149	162	119	111	137	143	107	109	138	1538
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	273	227	280	262	274	209	219	241	265	209	214	254	2927
合計	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	207	173	203	161	164	148	186	167	201	140	161	158	2069
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	228	195	219	221	232	188	197	209	220	208	180	214	2511
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	435	368	422	382	396	336	383	376	421	348	341	372	4580

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

ノロウイルス感染症に注意

【ノロウイルス感染症について】

ノロウイルスは、主にそれに汚染された食品を介してヒトへ感染し、嘔吐や下痢を引き起こす。また、環境中には牡蠣をはじめとした二枚貝へ蓄積することが分かっている。ノロウイルスの感染力は非常に強く、感染性胃腸炎および食中毒の原因ウイルスとして高率に検出される。

厚生労働省の食中毒統計¹⁾によると、原因物質が判明している食中毒のうち、2017-2019年のノロウイルスの患者数は約 50%以上を占め1位であり、食中毒 1 件あたりの患者数もノロウイルスは 30 人以上と全体の 12-16 人に比べて多い(表 1)。一方で 2020 年については、ノロウイルスの事件数・患者数ともに半減した。

また、健康科学研究所で 2017-2021 年の間に感染性胃腸炎の患者から検出されたウイルスの内、ノロウイルス(57.3%)が最も検出率が高かった(図 1)。神戸市における定点サーベイランス²⁾では、感染性胃腸炎の定点あたりの件数は 2017-2019 年に比べて、2020 年は大きく減少したものの、2021 年は増加傾向にあり、特に 2021 年末に多く発生している(図 2)。これは全国的にも同様の傾向であり、2020 年にはノロウイルスの検出が大きく低下したものの、2021 年以降また増えつつある³⁾。

【ノロウイルスの遺伝子型について】

ノロウイルスの遺伝子型は GI-GV の大きく 5 つに分類され、ヒトへ感染するのは GI および GII である。さらに GI は GI.1-GI.9 まで、GII は GII.1-GII.22 までの亜型に分類される⁴⁾。この亜型を検出することで、その地域や時期における流行型を知ることができる。

【健康科学研究所におけるノロウイルス検出状況】

健康科学研究所における 2017-2021 年のノロウイルスの検出について表 2 にまとめた。2020 年は小児下痢症サーベイランスについては GII.4 が 2 件、GII.6 が 1 件(いずれも 1-3 月。その後新型コロナウイルス感染症蔓延による感染リスクを考慮し、積極的な検体採取を行わなかったため 4-12 月は検体搬入なし)、食中毒疑い事例から GII.2 が 2 件検出された。2021 年は、小児下痢症サーベイランスから GII.4 が 1 件、食中毒疑い事例から GII.4 が 3 件、GII.2 が 1 件検出された。新型コロナウイルス蔓延以前の 2017-2019 年においても、GII.2 および GII.4 が多く検出されていたことから、ノロウイルスの流行型は大きく変わっていないことが推察される。

【ノロウイルス感染対策について】

ノロウイルスは、新型コロナウイルスと異なり、エンベロープを持たないウイルスである。そのため、新型コロナウイルスに有効な消毒用エタノールはほとんど効果がない(表 3)。厚生労働省は、ノロウイルスの感染予防として「十分な手洗い」と、消毒として業務用の次亜塩素酸ナトリウム、または家庭用の塩素系漂白剤を水で薄めて「塩素消毒液」を作る方法を紹介している⁵⁾。また、ノロウイルスは比較的熱に強いとされているため、加熱は内部温度で 85-90°C、90 秒以上が推奨されている。

現在流行している新型コロナウイルス感染症の対策として、消毒用アルコールが頻用されている。しかしながら、上に述べたように、ノロウイルス感染症対策のためにはアルコール消毒のみでは不十分で、「十分な手洗い」が重要である。また、汚染物の消毒に関しては次亜塩素酸ナトリウムや「塩素消毒液」を使用し、食品に関しては十分な加熱が必要となる。

そのため今後は、目的や用途にあわせて適切な消毒方法を選択することが求められる。神戸市 HP にもノロウイルスについての注意喚起の情報が記載されているので参照されたい⁶⁾。

参考文献

- 1) 厚生労働省. 食中毒統計資料.
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html
- 2) 神戸市感染症統合情報システム.
<https://kobecity-kmss.jp/>
- 3) 病原微生物検出情報 (IASR). ノロウイルス・サポウイルス&ロタウイルス シーズン別週別.
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>
- 4) de Graaf M et al. 2016. Human norovirus transmission and evolution in a changing world. *Nat Rev Microbiol.* 14, 421-33. doi: 10.1038/nrmicro.2016.48.
- 5) 厚生労働省. 感染性胃腸炎(特にノロウイルス)について.
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/norovirus/>
- 6) 神戸市. ノロウイルス感染症に注意しましょう.
<https://www.city.kobe.lg.jp/a73576/kenko/health/infection/poisoning.html>

神戸市健康科学研究所

谷本 佳彦

秋吉 京子

表 1. 厚生労働省食中毒統計¹⁾の抜粋

	2017 (H29)		2018 (H30)		2019 (H31/R1)		2020 (R2)	
	事件数	患者数	事件数	患者数	事件数	患者数	事件数	患者数
原因物質解明の食中毒	985	15,865	1,306	16,665	1,044	12,742	872	14,262
細菌	449	6,621	467	6,633	385	4,739	273	9,632
ノロウイルス	214	8,496	256	8,475	212	6,889	99	3,660
ノロウイルス患者数/原因判明全患者数	53.6%		50.9%		54.1%		25.7%	
ノロウイルス1件当たりの患者数	39.7		33.1		32.5		37.0	
原因判明食中毒1件当たりの患者数	16.1		12.8		12.2		16.4	

※2021(R3)の情報はまだ公開されていない

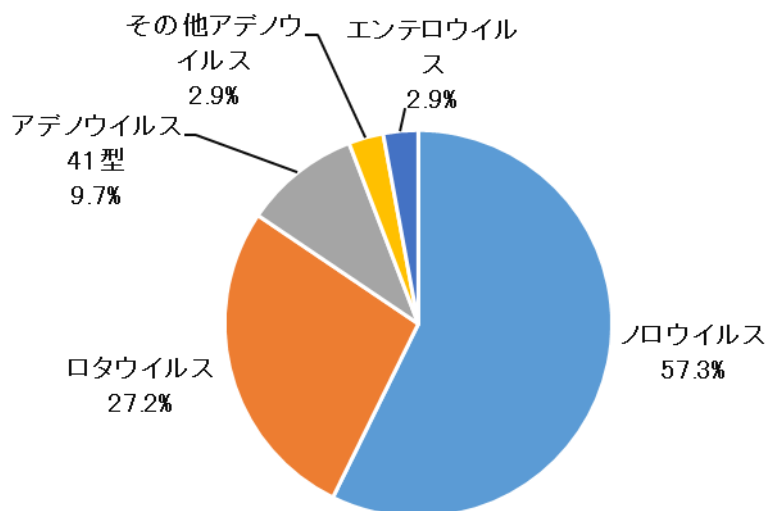


図 1. 感染性胃腸炎患者から検出されたウイルスの割合(2017-2021年、健康科学研究所実施分)

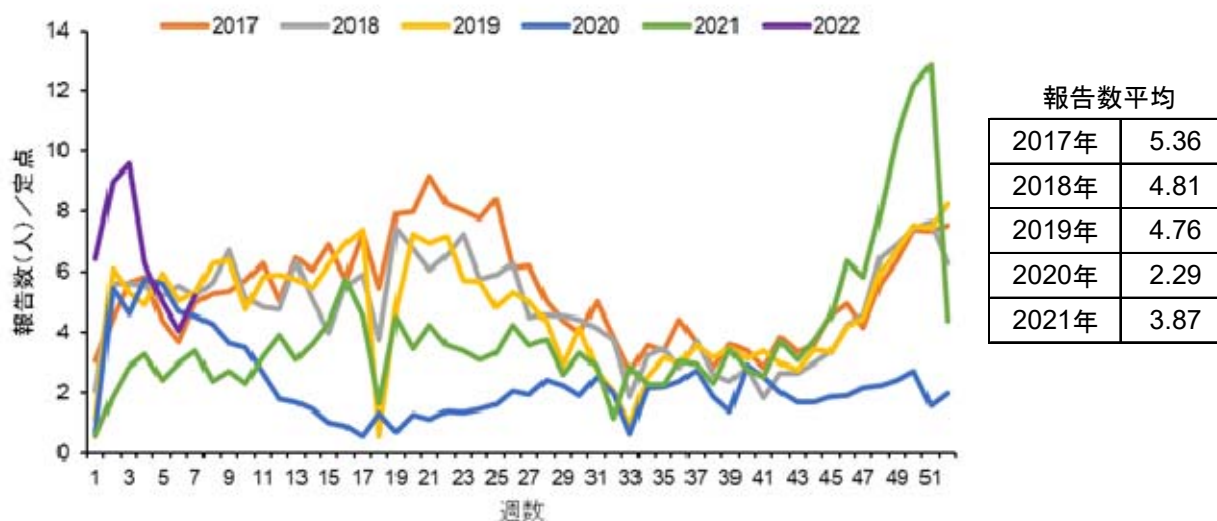


図 2. 神戸市感染症発生動向調査における感染性胃腸炎の定点あたり報告数の推移
2022年については、第7週までのデータ

表 2. ノロウイルスの検出状況（2017-2021 年、健康科学研究所実施分）

	GI.3	GII.1	GII.2	GII.3	GII.4	GII.6	GII.14	GII.15	GII.17
2017 サーベイ			6		6	1			
食中毒疑い			9	1				1	1
2018 サーベイ			6	1	7		2		
食中毒疑い	1								3
2019 サーベイ		1	6	3	6				
食中毒疑い			2		1				
2020 サーベイ					2	1			
食中毒疑い			2						
2021 サーベイ					1				
食中毒疑い			1		3				

※サーベイランスについては検体数、食中毒疑いについては事例数を集計した

表 3. ノロウイルス及び新型コロナウイルスの消毒剤による効果

	ノロウイルス (エンベロープの無いウイルス)	新型コロナウイルス (エンベロープの有るウイルス)
消毒用エタノール	×	◎
次亜塩素酸ナトリウム (「塩素消毒液」)	◎	◎

◎:効果あり ×:効果なし

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

<報告> 2021(令和3)年病原体検出状況(神戸市実施分)

健康科学研究所で行った定点医療機関からの検体を中心とした病原体検出状況について報告する。

細菌検出状況

1. 食中毒細菌

神戸市内の飲食店を利用して食中毒様症状を引き起こした疑いで、細菌検査の依頼があった事例は3件あった。このうち2件については、食中毒菌の検出はなかったが、鶏肉を喫食しカンピロバクターが原因菌として疑われた1事例については、検査対象患者5名のうち4名からカンピロバクター・ジェジュニが検出された。さらに、このうち1名からはサルモネラ属菌も検出された。

この他に、神戸市内の焼き肉店を利用した患者から腸管出血性大腸菌 O157 が検出された事例が発生し、関連施設の従業員5名について検便を実施したが、O157 は検出されなかった。また、大阪市内の飲食店を利用して食中毒様症状を呈した神戸市内在住者1名の細菌検査の依頼があり、サルモネラ属菌が検出された。

以上の細菌検査においては、黄色ブドウ球菌が5件、ウェルシュ菌が2件検出された。

また、細菌ではないが、粘液胞子虫の感染による食中毒を疑われた事例が発生し、患者1名の吐物を検査したところクドア・セプトン・ククタータが検出された。

2. 食中毒細菌以外の細菌(表1)

1) 下痢症原因菌

本年は、食中毒調査以外で細菌検査の依頼は全くなかった。

2) その他の細菌

a) 侵襲性肺炎球菌感染症

ワクチン接種済みの小児侵襲性肺炎球菌感染症3検体の血清型について、PCR法と膨化法により、10A(2検体)、15A(1検体)と同定した。検出された血清型はどちらも、結合型13価ワクチン(PCV13)には含まれない血清型であった。

また、成人の侵襲性肺炎球菌感染症1検体の血清型は12Fと同定した。

b) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

届出された侵襲性インフルエンザ菌感染症5件のうち1件について、PCR法による莢膜型別を実施した。その結果、インフルエンザ菌の莢膜型はnon-typableと同定した。

c) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症として届出された腸内細菌科細菌15株の検査を実施した。検出部位は、尿(7株)、腹水(3株)、血液(2株)、喀痰(2株)、胆汁(1株)であった。また菌種は、*Klebsiella aerogenes*(5株)、*Klebsiella pneumoniae*(3株)、*Enterobacter cloacae*(3株)、*Escherichia coli*(3株)、*Klebsiella oxytoca*(1株)であった。

ディスク法によるβ-ラクタマーゼ産生のスクリーニングおよび薬剤耐性遺伝子の保有状況を調べた。その結果、クラス C β-ラクタマーゼ産生が示唆された菌種は *Klebsiella aerogenes* (5 株)、*Enterobacter cloacae* (3 株) であった。なお、いずれの菌株からも既知のβ-ラクタマーゼ遺伝子は検出されなかった。

クラス A β-ラクタマーゼのみ検出された菌種は *Escherichia coli* (2 株) であった。2 株の *Escherichia coli* から CTX-M-1 型 β-ラクタマーゼを検出し、1 株からは TEM 型 β-ラクタマーゼも検出した。

クラス B β-ラクタマーゼ産生が示唆された菌種は *Klebsiella pneumoniae* (3 株)、*Escherichia coli* (1 株)、*Klebsiella oxytoca* (1 株) であった。2 株の *Klebsiella pneumoniae* からは IMP-1 β-ラクタマーゼと SHV 型 β-ラクタマーゼを検出した。1 株の *Klebsiella pneumoniae* からは IMP-6 β-ラクタマーゼと SHV 型、CTX-M-2 型 β-ラクタマーゼを検出した。*Escherichia coli* からは、IMP-6 β-ラクタマーゼと TEM 型、CTX-M-2 型 β-ラクタマーゼを検出した。*Klebsiella oxytoca* からは IMP-6 β-ラクタマーゼと CTX-M-2 型 β-ラクタマーゼを検出した。

d) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出された 9 件中、8 株の劇症型溶血性レンサ球菌を収集した。内訳は、A 群溶血性レンサ球菌 2 株、B 群溶血性レンサ球菌 3 株、G 群溶血性レンサ球菌 3 株であった。国立感染症研究所による菌株解析の結果、A 群溶血性レンサ球菌の T 型別については、型別不能 (2 株) であった。G 群溶血性レンサ球菌の *emm* 遺伝子型は、*stG245.0* 型 (2 株)、*stG485.0* 型 (1 株) であった。*stG245.0* 型株はエリスロマイシンとクリンダマイシンに耐性を示し、薬剤耐性遺伝子として *ermB* 遺伝子を保有していた。

e) ダニ媒介性細菌

日本紅斑熱については 9 件の検査を行い、8 例が陽性であった (昨年は 9 件中 4 件陽性)。ツツガムシ病については 2 件の検査依頼があったがすべて陰性であった。日本紅斑熱の症例は全国的な傾向と同様、神戸市においても増加傾向にあ

る。

ウイルス検出状況 (表 2、3)

2021 年は、依然として新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行が続いた。COVID-19 検査検体を除く病原体サーベイランス検体数は、昨年と同様少数であり、61 件 (うち陽性数 24 件) であった。検体数は少なかったものの、昨年とは異なり流行の見られた疾患もあったので、以下ではそれらを中心に述べる。

1) 新型コロナウイルス

行政検査として 28,777 検体の検査を実施し、5,422 検体から SARS-CoV-2 を検出した (それぞれ陰性確認検体分 1,272 検体、614 検体を含む)。また、研究所に搬入される行政検査検体に加え、市内の医療機関や民間検査センターで陽性となった検体を収集し、より広範囲のサーベイランスを実施した。陽性検体に対しては直ちに変異株検出 PCR を行うことで、2021 年以降に相次いで出現したアルファ株、デルタ株、オミクロン株の早期探知が可能となり、迅速な注意喚起へと繋がった。さらに、7,091 検体については全ゲノム解析を実施し、分子系統の把握、院内や地域における感染伝播様式の検証等、得られた情報を適宜保健所へ還元し、公衆衛生対策として活用した。

2) RS ウイルス

RS ウイルス感染症は 2020 年にはほとんど報告されなかったが、2021 年は 5 月初旬～8 月初旬に大きな流行が見られた。マスクの着用や手指消毒の徹底が困難な乳幼児が中心の疾患であることに加え、前年に流行がなく感受性者が蓄積されていたことが要因になったと考えられる。

3) エンテロウイルス

手足口病、無菌性髄膜炎等の 18 事例中、手足口病 10 事例 (咽頭ぬぐい液)、その他感染症 1 事例 (血清、咽頭ぬぐい液) からコクサッキーウイルス A 群 6 型 (CA6) を検出した。エンテロウイルスを主因とする手足口病やヘルパンギーナは 2020 年には全国的に流行が見られなかったが、2021 年

は 9～11 月にかけて低いながらも流行の山が見られた。神戸市と同様、全国においても手足口病の検体からは CA6 が最も多く検出されている。

4)ノロウイルス

2021 年の下痢症サーベイランス検体は 12 月の 1 件のみで、ノロウイルス GII が検出された。一方、2021 年末から 2022 年始にはノロウイルスによる食中毒事例が数件発生している。新型コロナウイルス対策として多用されているアルコール消毒はノロウイルスに対する効果が低いため、石鹼による手洗いの徹底が重要である。

5)麻しん・風しんウイルス

麻しん疑い 2 事例、風しん疑い 1 事例についてリアルタイム RT-PCR 法により遺伝子検査を実施したが、全て陰性であった。

6)インフルエンザウイルス

2020/21 シーズンに続いて 2021/22 シーズンも神戸市におけるインフルエンザの流行はなく、全国的にも同様であった。一方、世界的にはヨーロッパや北米での A(H3N2)、中国での B(ビクトリア系統)等、流行の見られた地域もあった。海外との往来制限によりウイルスの流入が少ないこと、また、欧米等と比較してマスクの着用や手指衛生の実施が徹底されていること等が国内での流行がなかった要因と考えられる。

神戸市健康科学研究所 感染症部

表1 2021年 食中毒以外の細菌検査

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ダニ媒介性	紅斑熱群リケッチア				1	1		1		1	4			8
	つつがむし病リケッチア													0
その他臨床	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4		2			1	1		2		3	2	15
	侵襲性肺炎球菌	2			1							1		4
	侵襲性インフルエンザ菌											1		1
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	2	1				1	1	1	1			8

注) 数字は陽性数を示す

表2-1 2021年 ウイルス検出状況

(新型コロナウイルスは別掲)

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
コクサッキーウイルスA群6型								1	1	8	1	1	12
RSウイルス				1	3	2	1	1					8
ノロウイルス												1	1
アデノウイルス2型							1						1
アデノウイルス37型				1									1
水痘帯状疱疹ウイルス				1									1
陽性検体数	0	0	0	3	3	2	2	2	1	8	1	2	24
検体数	0	0	0	11	3	15	6	3	1	11	3	8	61

表2-2 2021年 新型コロナウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
SARS-CoV-2*	812	208	613	1,624	797	98	146	739	321	48	4	12	5,422
(陰性確認検体での陽性検体数)	0	37	265	310	2	0	0	0	0	0	0	0	614
検体数*	4,695	1,496	2,818	6,886	3,826	691	1,300	4,193	1,815	379	37	641	28,777
(陰性確認検体数)	2	82	538	646	4	0	0	0	0	0	0	0	1,272

* SARS-CoV-2検出数、検体数は陰性確認検体分を含む

表3 2021年 疾患別ウイルス検出件数

(集団嘔吐下痢症および、インフルエンザ、新型コロナウイルスをのぞく)

診断名	検出ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
咽頭結膜熱	アデノウイルス 2型							1						1
手足口病	コクサッキーウイルスA群6型								1	1	6	1	1	10
感染性胃腸炎	ノロウイルス												1	1
RSウイルス感染症	RSウイルス				1	3	2	1	1					8
水痘	水痘帯状疱疹ウイルス				1									1
流行性角結膜炎	アデノウイルス37型				1									1
合計検出数		0	0	0	3	3	2	2	2	1	6	1	2	22

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

ダニ媒介感染症

(日本紅斑熱、つつがむし病、SFTS)

【ダニ媒介感染症】

ダニ媒介感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体を保有するダニに咬まれることで引き起こされる感染症である。ダニ媒介感染症の多くは感染症法に基づく全数把握の 4 類感染症に指定されている。日本国内では、日本紅斑熱、つつがむし病および重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の三疾患についての届出数が多く、特に日本紅斑熱とSFTSは近年増加傾向を見せている。本稿では上記のダニ媒介感染症について概説するとともに神戸市での発生状況および神戸市健康科学研究所での検査体制について述べる。

【病原体と媒介ダニ】

日本紅斑熱とつつがむし病の病原体は、それぞれ *Rickettsia japonica* と *Orientia tsutsugamushi* であり、ともにリケッチア目リケッチア科の細菌である。これらは一般的な細菌とは異なり、その発育において細胞内に寄生することが必要不可欠な細菌である。

日本紅斑熱、つつがむし病はともにダニが媒介する。日本紅斑熱の媒介動物はダニ目ダニ科のマダニで、日本国内ではキチマダニ、フタゲチマダニ、ヤマアラシチマダニが主である。一方つつがむし病の主たる媒介動物は、ダニ目ツツガムシ科のアカツツガムシ、フトゲツツガム

シ、タテツツガムシ、デリーツツガムシである。つつがむし病に関しては、古くから存在していた古典型(Gilliam 型、Kato 型、Karp 型)と新しく発見された新興型(Irie/Kawasaki 型、Hirano/Kuroki 型、Shimokoshi 型)があり、アカツツガムシとフトゲツツガムシが古典型を、タテツツガムシとデリーツツガムシが新興型を媒介する。

SFTS の病原体は RNA ウイルス(SFTSV)であり、感染症法上では「ブニヤウイルス科フレボウイルス属の SFTS ウイルスによる感染症である」と定義されているが、現在では SFTSV の分類はフェニイウイルス科バンヤンウイルス属へと変更されている。主にフタゲチマダニとタカサゴキララマダニを媒介動物として感染するが、近年 SFTSV に感染した伴侶動物(ネコ、イヌ)に咬まれて、または、直接接触して感染した事例が報告されているほか、患者の血液や体液との接触によるヒトからヒトへの感染事例も報告されている。

【臨床症状】

日本紅斑熱、つつがむし病および SFTS の潜伏期間はダニまたはツツガムシに刺咬されてから各々2~8 日、5~14 日および 6~14 日である。

日本紅斑熱とつつがむし病の臨床症状は類似しており、発熱、頭痛、倦怠感を伴い発症し、その後数日で発疹が出

現する。両疾患を臨床的に鑑別することは困難であるが、つつがむし病では発疹が主に体幹部にみられるのに対し、日本紅斑熱では体幹部より四肢末端部に比較的強く出現することや、ツツガムシ刺し口では黒色痂皮が形成されるのに対し、マダニの刺し口の中心の痂皮部分が小さいなどの違いも確認されている。また、つつがむし病では刺し口近傍の所属リンパ節、あるいは全身のリンパ節の腫脹がみられる患者が多い。両疾患とも臨床所見ではCRPの上昇、肝酵素（AST、ALT）の上昇、血小板減少などが認められる。治療が遅れると播種性血管内凝固が起こり死に至るケースもある。

SFTSでは発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多くの症例で認められる。2016年2月時点の感染症発生動向調査によると、死亡例に多く認められる症状として神経症状、出血傾向、紫斑、消化管出血が挙げられている。臨床所見では血小板減少、白血球減少、肝酵素（AST、ALT、LDH）の上昇が多くの症例で認められるが、CRPは正常範囲内であることが多く、日本紅斑熱やつつがむし病との鑑別に利用されることもある。

【治療方法】

日本紅斑熱およびつつがむし病ともにテトラサイクリン系薬剤が第一選択治療薬となる。両疾患ともに治療の遅れが重症化につながるため、臨床的に疑う場合は、検査結果を待たずに治療を開始することが推奨されている。

一方、SFTSに有効な抗ウイルス薬等による特異的な治療法は開発されておらず、敗血症の治療に準じた支持療法が予後の改善には重要である。

【検査診断法】

日本紅斑熱、つつがむし病およびSFTSの確定診断には、分離同定による病原体の検出、PCR法による病原体

遺伝子の検出、血清学的検査による抗体の検出、のいずれかが必要となる。

神戸市健康科学研究所では日本紅斑熱とつつがむし病について、PCR法による遺伝子検査と血清学的検査を実施している。PCR法に使用する検体としては、検出率の高い順に、刺し口痂皮＞紅斑部生検＞急性期血液（抗菌薬投与前）、となっている。日本紅斑熱では特に血液での検出率が低い傾向にある。血液を遺伝子検査の検体として提出する場合はEDTA-2Kまたはクエン酸Na処理したものを準備する。抗菌薬投与後は血液検体は遺伝子検査には不適となるが、痂皮からは投与後でも病原体遺伝子が検出できることは多い。血清学的検査に用いる血清（または血漿）は急性期とその後10日から2週間後の回復期の2点（ペア血清）を基本とする。遺伝子診断は検出限界などの問題もあるため、抗体価の上昇を確認できるペア血清の確保はリケッチア症の診断上重要となる。

SFTSVは長期間血中にウイルスが比較的高濃度に残存するためPCR検査が有効である。神戸市健康科学研究所ではSFTSの遺伝子検査が実施可能であり、行政検査として受け入れている。検体としては血清（血漿、血液も可）が最も適するが、咽頭スワブ、気道分泌物、尿等も供することができる。血清学的検査では血清（あるいは血漿）が適し、急性期と回復期に採取されたペア血清を同時に用いることが望ましいが、現在神戸市ではSFTSの血清診断は実施しておらず、要望があれば検体を国立感染症研究所に送付し行政検査を依頼することになる。なお、現在神戸市健康科学研究所ではSFTSに関して動物由来検体の検査は実施していない。

【日本国内と神戸市での発生状況】

日本紅斑熱、つつがむし病およびSFTSの日本国内での発生件数の推移を図1に示した。つつがむし病は2000年

に791例が報告されたが、その後は300～500例の報告数で推移している。2020年と2021年は500例を超える届出があった。一方、日本紅斑熱は1999年から2006年までは年間100件以下であったが、2007年に100件を超えるようになった後増加に転じ、2020年が422例、2021年が486例と最大数を更新している。2022年も25週目までに116例の届出があった。SFTSに関しては、2013年に日本国内で最初の症例が報告された後は報告数が増加傾向であり、現在は100例前後の報告数で推移している。それぞれの疾患の月別報告数は各媒介動物の活動時期と相関があり、日本紅斑熱とSFTSは5～11月に報告数が多く、つつがむし病は5・6月と11・12月に報告のピークがある。

神戸市における日本紅斑熱およびつつがむし病の届出件数の推移を図2に示した。神戸市では現在までにSFTSの発生は確認されていない。神戸市においてはつつがむし病より日本紅斑熱の届出数の方が上回っている。日本紅斑熱は2018年までは年間0～2例程度の届出数であったが、2019年に6例を境に増加に転じ、2021年には過去最高の9例の届出があった。2022年も25週目までで5件の届出があり、2021年の同時期よりも多い届出数となっている。一方、つつがむし病は2019年の4例が最高で、2021年に届出は無く、2022年も25週目現在で発生は確認されていない。神戸市健康科学研究所で2018年に2件、2019年に1件つつがむし病の遺伝子検査で陽性となった症例があるが、遺伝子配列解析の結果いずれもKawasaki型による感染であった。神戸市健康科学研究所では2017年よりつつがむし病と日本紅斑熱の行政検査の受入を開始した。現在では年間十数症例の検査を実施している。

【対策】

野山に入る際には、ダニに刺されない

ように肌の露出部を少なくし、露出部にはダニ忌避剤が入っている虫よけスプレーを施すようにする。また、神戸市においては自宅の庭でダニに咬まれて感染した事例も複数確認されているため、山間部に入る際だけではなく、周囲にダニが生息している環境がある場合には十分注意が必要である。

衣服に付いたダニを家庭に持ち込んで家族が感染したという症例もあるので、野山での活動の後にはダニによる刺傷の有無に関係なく、衣服の取り扱いにも十分に注意をする。

犬や猫などのペットを飼育している方は、ペットへのダニの寄生に注意をする。

万が一ダニに咬まれた場合、またはその可能性が考えられる場合は、自分自身の状態をよく観察し、体調に異変を感じたら、すぐに病院を受診する。

健康科学研究所感染症部 野本竜平

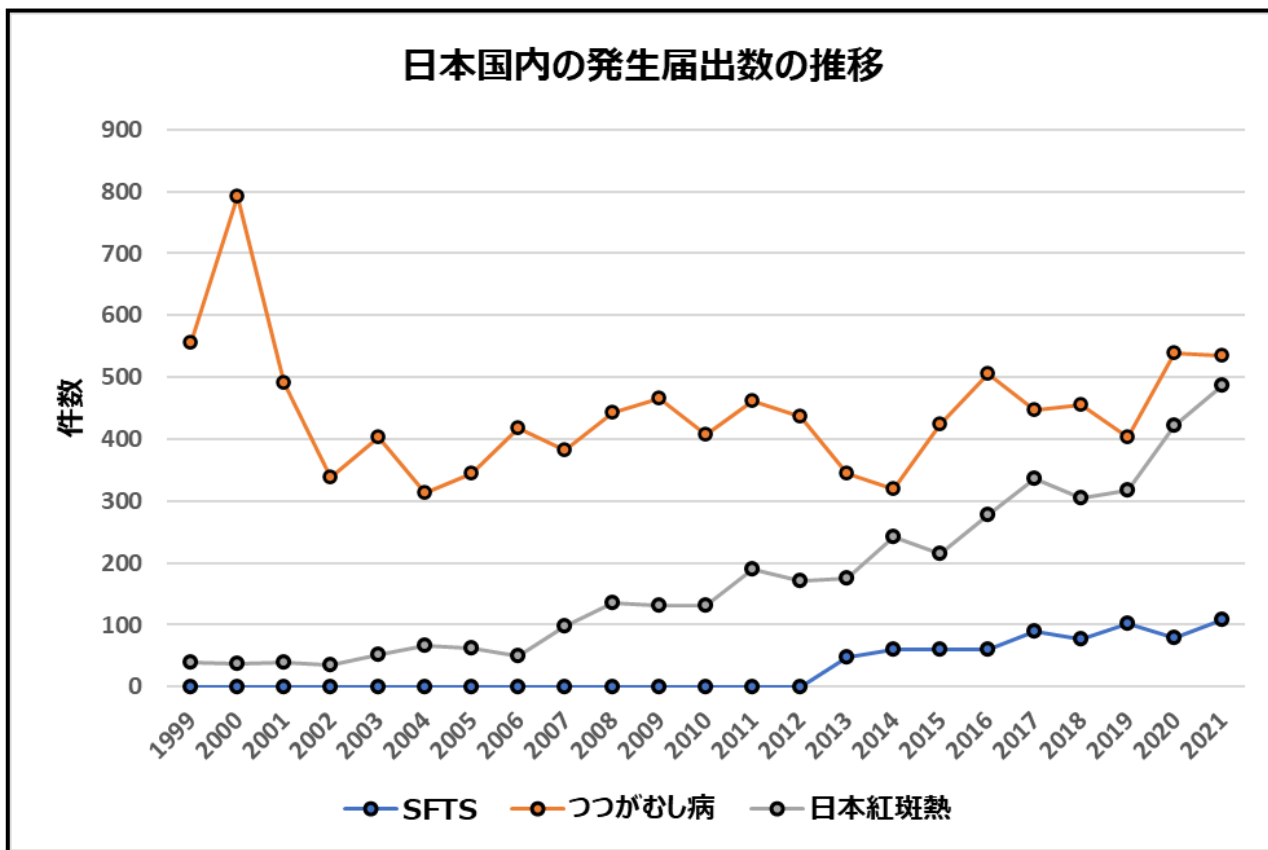


図 1. 日本国内における発生届出数の推移（感染症発生動向調査より）

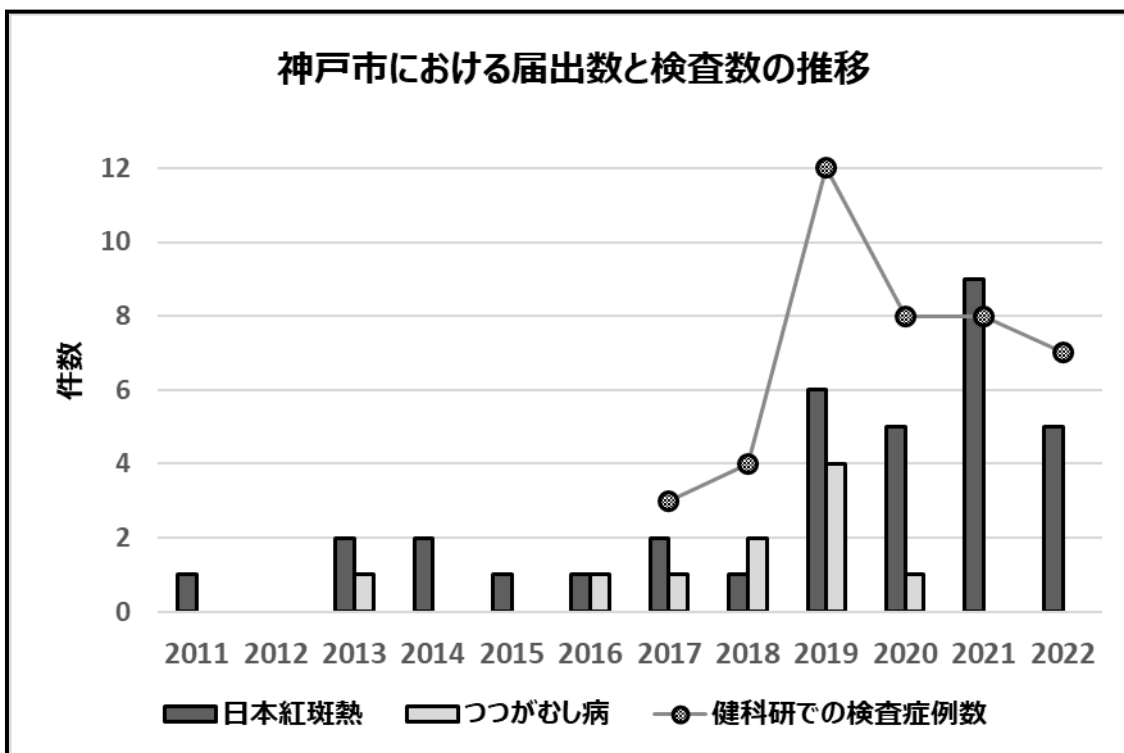


図 2. 神戸市内における日本紅斑熱とつつがむし病の届出件数と健康科学研究所でのダニ媒介感染症検査件数の推移（2022年は25週目時点のデータ）

2022 年第 5 号(9 月発行)

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和 4 年 8 月、2021 年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表され、全国の結核罹患率は 9.2 と 10 未満となり、日本は低蔓延国の仲間入りをした。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00007.html)

神戸市の 2021 年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)
2021 年の結核罹患率は全国では 9.2、神戸市では 13.2、政令指定都市の中(東京都特別区を含む)で、高い方から 5 番目である。市内で最も罹患率が高いのは長田区の 22.3 で、次いで兵庫区 17.5、北区 14.8 であった。一方、罹患率が低いのは灘区 8.8、垂水区 9.9 と全国並みの 10 未満である。人口の少ない区では変動が大きいが、旧市街地である 3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。(表 1、図 1)神戸市全体では神戸市結核予防計画 2020 の目標である結核罹患率 17.0 未満を達成できた。しかし、コロナ禍の影響(健診や医療機関への受診控え等)で診断患者数が低下しているだけの可能性は否定できず、今後は患者

の早期発見に努めたい。

2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)
新登録結核患者数は全国では 11,519 人で前年より、1,220 人(11.3%)減少している。神戸市では 201 人で、前年より、12 人(約 5.6%)減少した。2019 年に 1.5%増加したので、1 年ごとでは多少の増減がありながらも、患者数は減少していく過程と考えている。(表 2、図 1)
3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰をガラス板に塗り顕微鏡でみて菌がみつかった患者(菌量が多い、他人への感染性が高い)数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)
喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国では 4,127 人、罹患率 3.3 で、神戸市では 77 人、罹患率は 5.1 である。神戸市結核予防計画 2020 の目標である喀痰塗抹陽性罹患率 7.0 未満は維持できた。これをさらに減少させるため早期発見に努めたい。(図 2)
4. 結核菌の感受性検査結果
結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4 剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤の INH,RFP の 2 剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で 5,902 人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは 4,551 人、MDR は 41 人(0.7%)であった。神戸市では培養陽性患者 132 人、全件感受性が判明して

おり、MDR は 0 人であった。菌情報の把握に努め、患者の服薬完遂まで支援している成果と考える。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図3)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70 歳以上は全国では 7,314 人で 63.6%、神戸市では 143 人で 71.1%をしめる。80 歳以上は全国では前年より 352 人減少して 5,073 人(44.1%)、神戸市では 22 人増加して 107 人(53.2%)であった。70 歳以上の結核患者は合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられるが、何となく元気がない、食欲が低下してきたなどの症状が結核のはじまりのことがある。

6. 小児結核(0～14 歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国で 29 人、前年から 23 人(44.2%)の減少となっている。重症結核例は、粟粒結核の 0 歳の患者が 1 人であった。神戸市の小児結核は 2017 年に 3 人、2018 年・2019 年には 0 人、2020 年に 2 人で、2021 年に 1 人であった。コッホ現象からの発見で、胃液の TB-PCR が 2 回陽性で、活動性結核と診断したが、培養は検出されず、感染源は不明である。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から 98 人減少し、1,313 人となった。神戸市では 12 人と 10 人減少したが、全新登録結核患者の 5%を超えている。20 代においては新登録結核患者 10 人中 7 人(70%)が外国生まれであった。全国でも 20 代の新登録結核患者に占める外国生まれ患者の割合は 72.6%となっており、依然として高い割合となっている。結核の罹患率が高い国で生まれ、大学・語学学校などの留学生として来日し、発病している人が多い。入国前結核スクリーニングが稼働すれば、入国 2 か月以内の発病者は減ると予想される。しかし、結核は潜伏期間が長いいため、その後も年 1 回の健診の受診勧奨とそこで発見される人を速やかに治療につなぎ、感染拡大の連鎖を絶つことが重要である。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染してい

るが、症状・所見はなく発病していない状態：Latent Tuberculosis Infection (LTBI) 治療が必要な例のみ届出る。

全国では 2021 年 5,140 人で、前年より 435 人減少、神戸市では 64 人で、前年より 4 人減少している。接触者健診で発見し治療する人より、生物学的製剤などを使う治療に際し、治療が必要となる人が増加し、60 歳以上が約半数を占めている。(図 4)2021 年 10 月 18 日の医療基準の改定により、INH, RFP2 剤で 3～4 か月というレジメが追加承認された。

表 1 罹患率(人口 10 万人あたり)

年	2019	2020	2021
神戸市	17.2	14.0	13.2
東灘	13.5	12.6	10.8
灘	20.5	8.0	8.8
中央	20.4	15.6	14.2
兵庫	26.1	22.0	17.5
北	14.1	12.4	14.8
長田	33.6	21.1	22.3
須磨	10.7	12.0	13.3
垂水	14.3	13.5	9.9
西	15.8	14.2	13.5

令和 2 年国勢調査の人口集計値で計算

表 2 新登録患者数(人)

年	2019	2020	2021
神戸市	262	213	201
東灘	29	27	23
灘	28	11	12
中央	29	23	21
兵庫	28	24	19
北	30	26	31
長田	32	20	21
須磨	17	19	21
垂水	31	29	21
西	38	34	32

図1 各区罹患率

人口10万人に対する患者数
(2018年～2021年 新規患者)

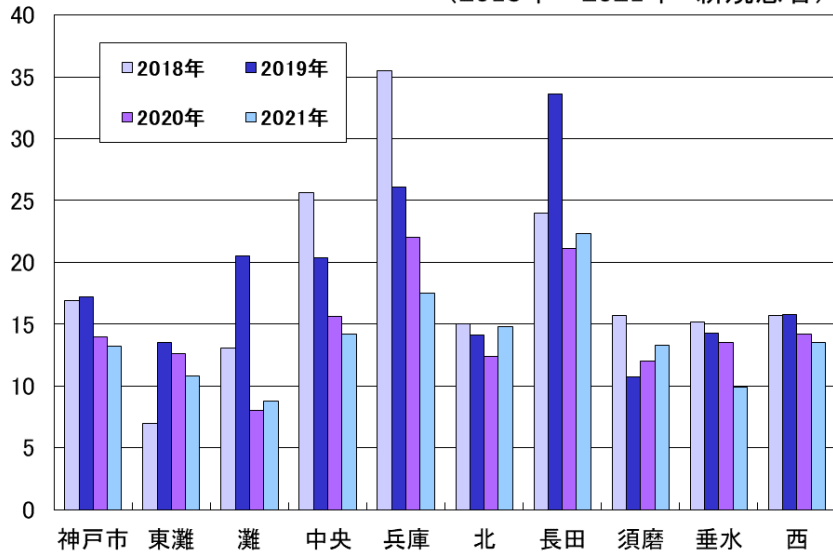


図2 新登録結核患者数(年次推移) 神戸市

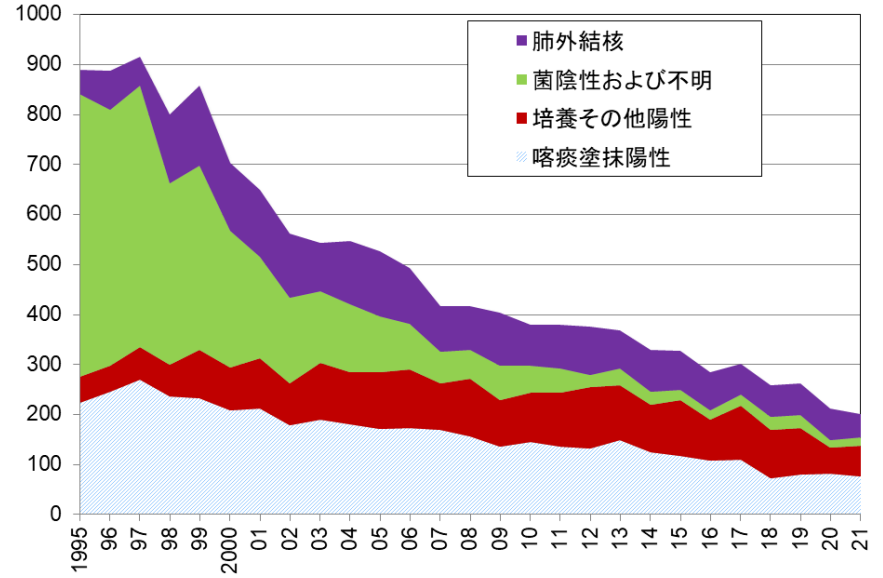


図3 新登録患者年齢分布 神戸市

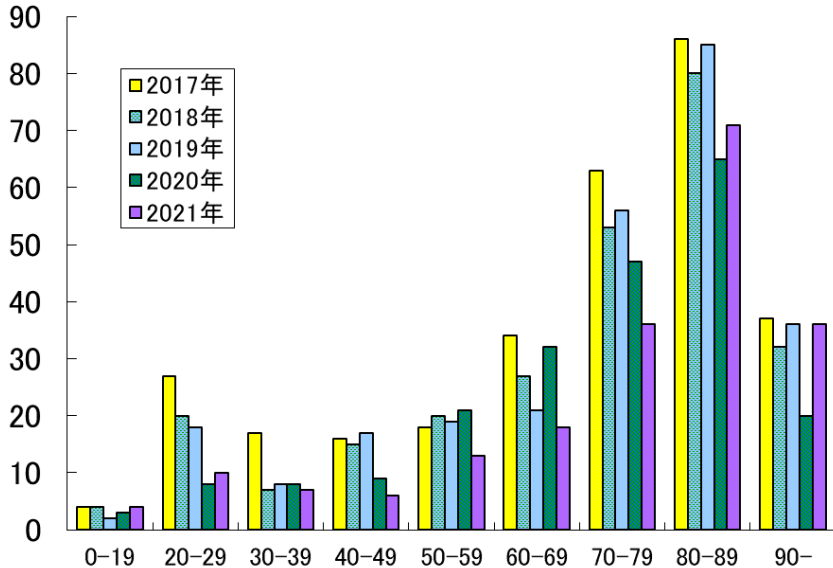
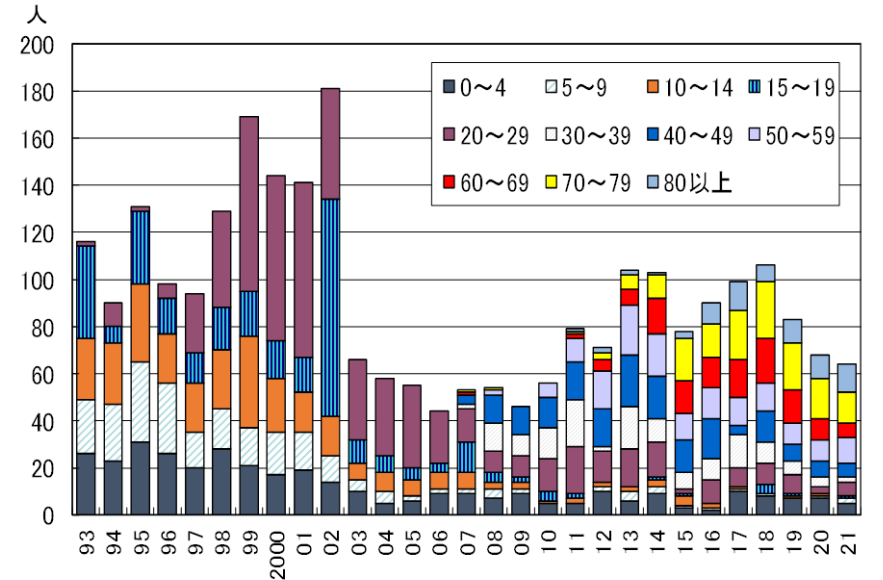


図4 潜在性結核感染症登録者数の推移(神戸市)



感染症発生動向調査の対象となる感染症一覧

(令和4年4月1日現在)

一類感染症		五類感染症・全数把握	
1	エボラ出血熱	1	アメーバー赤痢
2	クリミア・コンゴ出血熱	2	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)
3	痘そう	3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
4	南米出血熱	4	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)
5	ペスト	5	急性脳炎(四類感染症における脳炎を除く)
6	マールブルグ病	6	クリプトスポリジウム症
7	ラッサ熱	7	クロイツフェルト・ヤコブ病
二類感染症		8	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
1	急性灰白髄炎	9	後天性免疫不全症候群(無症状病原体保有者を含む)
2	結核	10	ジアルジア症
3	ジフテリア	11	侵襲性インフルエンザ菌感染症
4	重症急性呼吸器症候群(SARS コロナウイルスに限る)	12	侵襲性髄膜炎菌感染症
5	中東呼吸器症候群(MERS コロナウイルスに限る)	13	侵襲性肺炎球菌感染症
6	鳥インフルエンザ(H5N1)	14	水痘(入院例に限る)
7	鳥インフルエンザ(H7N9)	15	先天性風しん症候群
三類感染症		16	梅毒(無症状病原体保有者を含む)
1	コレラ	17	播種性クリプトコックス症
2	細菌性赤痢	18	破傷風
3	腸管出血性大腸菌感染症	19	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
4	腸チフス	20	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
5	パラチフス	21	百日咳
四類感染症		22	風しん
1	E型肝炎	23	麻しん
2	ウエストナイル熱	24	薬剤耐性アシネトバクター感染症
3	A型肝炎	五類感染症・小児科定点	
4	エキノコックス症	25	RSウイルス感染症
5	黄熱	26	咽頭結膜熱
6	オウム病	27	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
7	オムスク出血熱	28	感染性胃腸炎
8	回帰熱	29	水痘
9	キャサヌル森林病	30	手足口病
10	Q熱	31	伝染性紅斑
11	狂犬病	32	突発性発しん
12	コクシジオイデス症	33	ヘルパンギーナ
13	サル痘	34	流行性耳下腺炎
14	ジカウイルス感染症	五類感染症・インフルエンザ定点	
15	重症熱性血小板減少症候群(SFTSウイルスに限る)	35	インフルエンザ(鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く)
16	腎症候性出血熱	五類感染症・眼科定点	
17	西部ウマ脳炎	36	急性出血性結膜炎
18	ダニ媒介脳炎	37	流行性角結膜炎
19	炭疽	五類感染症・性感染症定点	
20	チクングニア熱	38	性器クラミジア感染症
21	つつが虫病	39	性器ヘルペスウイルス感染症
22	デング熱	40	尖圭コンジローマ
23	東部ウマ脳炎	41	淋菌感染症
五類感染症・基幹病院定点			
週単位		月単位	
35	インフルエンザ(入院患者のみ)	45	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
42	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスによるものに限る)	48	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
43	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	49	薬剤耐性緑膿菌感染症
44	細菌性髄膜炎	法14条第1項に規定する厚生労働省令に定める疑似症	
46	マイコプラズマ肺炎	1	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの。
47	無菌性髄膜炎		
新型インフルエンザ等感染症			
1	新型インフルエンザ		
2	再興型インフルエンザ		
3	新型コロナウイルス感染症		
4	再興型新型コロナウイルス感染症		

報告週対応表(2022年・令和4年)

月・週		期 間	
		(月曜)	～ (日曜)
1月	第 1 週	1月3日	～ 1月9日
	第 2 週	1月10日	～ 1月16日
	第 3 週	1月17日	～ 1月23日
	第 4 週	1月24日	～ 1月30日
2月	第 5 週	1月31日	～ 2月6日
	第 6 週	2月7日	～ 2月13日
	第 7 週	2月14日	～ 2月20日
	第 8 週	2月21日	～ 2月27日
3月	第 9 週	2月28日	～ 3月6日
	第 10 週	3月7日	～ 3月13日
	第 11 週	3月14日	～ 3月20日
	第 12 週	3月21日	～ 3月27日
4月	第 13 週	3月28日	～ 4月3日
	第 14 週	4月4日	～ 4月10日
	第 15 週	4月11日	～ 4月17日
	第 16 週	4月18日	～ 4月24日
	第 17 週	4月25日	～ 5月1日
5月	第 18 週	5月2日	～ 5月8日
	第 19 週	5月9日	～ 5月15日
	第 20 週	5月16日	～ 5月22日
	第 21 週	5月23日	～ 5月29日
6月	第 22 週	5月30日	～ 6月5日
	第 23 週	6月6日	～ 6月12日
	第 24 週	6月13日	～ 6月19日
	第 25 週	6月20日	～ 6月26日

月・週		期 間	
		(月曜)	～ (日曜)
7月	第 26 週	6月27日	～ 7月3日
	第 27 週	7月4日	～ 7月10日
	第 28 週	7月11日	～ 7月17日
	第 29 週	7月18日	～ 7月24日
	第 30 週	7月25日	～ 7月31日
	8月	第 31 週	8月1日
第 32 週		8月8日	～ 8月14日
第 33 週		8月15日	～ 8月21日
第 34 週		8月22日	～ 8月28日
9月	第 35 週	8月29日	～ 9月4日
	第 36 週	9月5日	～ 9月11日
	第 37 週	9月12日	～ 9月18日
	第 38 週	9月19日	～ 9月25日
	第 39 週	9月26日	～ 10月2日
10月	第 40 週	10月3日	～ 10月9日
	第 41 週	10月10日	～ 10月16日
	第 42 週	10月17日	～ 10月23日
	第 43 週	10月24日	～ 10月30日
11月	第 44 週	10月31日	～ 11月6日
	第 45 週	11月7日	～ 11月13日
	第 46 週	11月14日	～ 11月20日
12月	第 47 週	11月21日	～ 11月27日
	第 48 週	11月28日	～ 12月4日
	第 49 週	12月5日	～ 12月11日
	第 50 週	12月12日	～ 12月18日
	第 51 週	12月19日	～ 12月25日
	第 52 週	12月26日	～ 1月1日